

シリアにおける クルド民族主義政党・政治組織(補足)

- ハリーリー元首相暗殺に伴う政情変化のなかで(2005年)-

青山弘之

はじめに

- I シリアをめぐる政治情勢
 - II 反政府勢力の動静
 - III クルド民族主義政党・政治組織, 政治同盟の活動(50音順)
- 結びにかえて

はじめに

本研究資料は、本誌第39号(2005年7月)と第40号(2006年1月)に掲載した「シリアにおけるクルド民族主義政党・政治組織」[青山2005b; 2006b]の補足稿であり、2005年におけるシリアのクルド民族主義勢力の動静を紹介することを目的としている。

この年に発生したレバノンのラフィーク・ハリリー(Rafiq al-Hariri)元首相暗殺事件(2005年2月14日)は、シリアをめぐる政治情勢に大きな変化をもたらした。そしてこの変化は、バッシュール・アサド(Bashshār al-Asad)政権に対する国際社会の非難を一気に強めるとともに、クルド民族主義勢力を含むシリアの反政府勢力を再活性化させた。

こうした事情を踏まえ、本稿ではまず第I節で、シリアをめぐる政治情勢、とりわけシリアの対レバノン政策に対する国連(米仏)の攻勢と

アサド政権の対応を概観する。次に第II節で、ハリリー元首相暗殺後の政情変化のなかで、シリアの反政府勢力がどのような活動を展開したのかをみる。そのうえで第III節で、クルド民族主義勢力に属す政党・政治組織、政治同盟の活動を具体的に解説する。そして、「結びにかえて」で、2005年のクルド民族主義勢力の活動がいかなる特徴・傾向をもっていたかを明らかにする。

I シリアをめぐる政治情勢

米仏、そして国連によるシリア批判は、2004年に激しさを増し、2005年2月のハリリー元首相暗殺をもって一気に本格化、アサド政権を政治的危機に陥れるとともに、シリアの反政府勢力の再活性化を促した。そこで本節では、クルド民族主義勢力を含むシリアの反政府勢力の活動をみる前段階として、2004年半ばから本稿脱稿時(2006年3月)までの政治情勢の変化を三つの局面に分けて概説する^(注1)。

1. 第1局面(2004年9月~2005年4月)

第1局面は、レバノン「占領支配」への批判が国際社会とレバノン国内で高まり、アサド大統領がレバノン駐留シリア軍の完全撤退を余儀

なくされた時期である。この局面は、2004年9月2日の国連安保理決議第1559号の採択とともに始まった。レバノンのエミール・ラフフード(Imil Lahhūd)大統領の任期延長を内政干渉と批判する米仏のイニシアチブのもとで採択された同決議は、レバノンでの「自由で公正な選挙」の実施を支持し、「すべての駐留外国軍の撤退」、
「レバノン人および非レバノン人の民兵組織の武装解除と解体」などを求めている^(注2)。

国連決議を通じた米仏の圧力に対して、アサド政権は当初、シリア軍の段階的な部分撤退^(注3)で事態を乗り切ろうとした。だが、2005年2月14日のハリリー元首相暗殺を機に、同政権はこうした「付け焼き刃」的な措置では対処しきれないほどの激しい攻勢にさらされた。すなわち、事件をシリアの犯行と断じるレバノンの反シリア勢力が民衆を動員するかたちで「独立インテイファダ」(intifāda al-istiqlāl)を指導し、シリア軍の即時完全撤退と主権回復を要求する一方、米仏(そして国連)がこの動きに乗じるかたちでシリアへの批判を強めたのである。その結果、シリアは30年近くに及んだ実効支配を断念し、2005年3月半ばから4月下旬にかけて、駐留シリア軍約1万4000人を完全撤退させた^(注4)。

2. 第2局面(2004年4～10月)

第2局面は、レバノン「占領支配」に代わって、ハリリー元首相の暗殺容疑がシリア・パッシングの中心に据えられていった時期である。この局面は、ハリリー元首相暗殺事件を調査するための国連国際独立調査委員会(the UN International Independent Investigation Commission: 以下、UNIIC)の設立を定めた国連安保理決議第1595号の採択(2005年4月7日)をもって開始さ

れた^(注5)。

2005年6月に正式に発足したUNIIC(デトレブ・メフリス(Detlev Mehlis)委員長、本部ペイルート郊外のモンテヴェルデ・ホテル(Monteverde Hotel))の調査は、反シリア勢力が主導するフアード・スイニユーラ(Fu'ād al-Sinyūra)内閣のもと、レバノン国内では順調に進み、8月末にはシリアの実効支配を支えてきたとされる治安当局前責任者4人が逮捕された。しかし、シリアにおいて、UNIICは積極的な調査協力を得られず、9月下旬にシリア軍・治安組織高官約10人の事情聴取を行なった以外になんの成果も上げることではできなかった。

こうした事情もあいまって、10月19日にUNIICが国連事務総長に提出した報告書(第1回報告書)は、ハリリー元首相暗殺事件を政局としてシリアに外交圧力をかけようとする米仏の思惑を反映したような内容となった。すなわち、同報告書は、「シリアとレバノンの治安当局が関知せずに暗殺計画が実行された……とは考えにくい」との前提のもと、シリアの有罪を推定するとともに、「シリア政府による……実質的協力の欠如が調査を妨げ、さまざまな……証言から得られた情報の裏づけを困難にした」と指摘し、アサド政権の非協力的態度を非難したのである^(注6)。

3. 第3局面(2005年10月～)

第3局面は、ハリリー元首相暗殺事件への関与の有無ではなく、UNIICの調査へのアサド政権の非協力的態度にパッシングが集中するなかで、シリアと国連が一進一退の攻防を繰り広げるようになった現在に至るまでの時期である。この局面は、2005年10月31日の国連安保理

決議第1636号の採択をもって開始された。UNIICによる第1回報告書提出を受けるかたちで採択された同決議は、ハリリー元首相暗殺をあらためて「テロ」と認定し、その容疑者個人に対する「制裁」(渡航制限、資産凍結)を国連加盟国に求めた。また、12月15日まで活動期限が延長されたUNIICへの全面協力をシリアに要求するとともに、「国連憲章第7章に基づく」という表現をもって、シリアがUNIICに対して非協力的な態度を続ければ、追加措置、すなわち制裁もあり得ることを示唆した^(注7)。

これに対して、アサド政権は、UNIICとの協力を任務とする特別司法委員会を新設し、調査への全面協力を約束する一方で、UNIICをおとしめるような戦術に打って出た。例えば、11月10日、アサド大統領本人がダマスカス大学講堂で異例の演説を行ない、「[レバノンの一部の政治家が]国民に嘘や偏見を押し売りし……欺いた……。また[UNIICの]調査を欺くことに尽力し、それが真実に至ることを妨げた」[SANA 2005d]と述べた。また、同月末には、ハリリー元首相暗殺へのシリア軍・治安組織の関与をUNIICに証言した元諜報員フサム・ターヒル・フサム(Husām Ṭāhir Husām)に記者会見を行なわせ、レバノンでの身柄拘束中にサアドゥディーン・ハリリー(Sa'd al-Dīn al-Ḥarīrī、ハリリー元首相の二男)議員らレバノン政府高官から拷問と脅迫を受け、虚偽の証言を行なったことを「暴露」させた[Akhbār al-Sharq 2005r]。こうした攪乱戦術を前に、UNIICはアースィフ・シャウカト(Āṣif Shawkat)少将(軍事情報局長、アサド大統領の姉ブシュラー・アサド[Bushrā al-Asad]の夫)らの事情聴取を断念せざるを得なくなった^(注8)。

UNIICの調査延長期間の終了とともに、国連は安保理決議第1644号を採択(12月15日)した。同決議は、UNIICの任期を2006年6月15日まで再度延長するとともに、3カ月ごとの報告をUNIICに求めることで、アサド政権の非協力的態度を牽制した。また、「国際的な性格をもつ法廷」の設置というレバノン政府(スィニユーラ内閣)の要請を承認し、事務総長に対して法廷開設に向けた支援を求める一方、2004年10月1日^(注9)以降のレバノンでの「テロ」に対するレバノン当局の調査へのUNIICの技術支援を認め、その活動範囲を拡大した^(注10)。

この決議で、シリアはUNIICの活動期限が終了する2006年半ばまで制裁を猶予されはした。だが2005年12月30日、アブドゥルハリーム・ハッダーム('Abd al-Ḥalīm Khaddām)副大統領(外務担当)^(注11)がドバイの衛星テレビ局アル=アラビーヤ(al-'Arabiya)とのインタビューで、アサド政権との「絶縁」を宣言し、「治安当局であろうがなかろうが、このような決定[ハリリー元首相暗殺]を単独で決定できる者などいない」[Alarabiya.net 2005]と述べて事件へのアサド大統領の関与を示唆すると、UNIICによる協力要請は再び厳しさを増した。このインタビューを受けUNIICはアサド大統領とファールーク・シャルア(Fārūq al-Shar')外務大臣(兼副首相)^(注12)に対する事情聴取を正式に要請したのである[Akhbār al-Sharq 2006]

2006年1月にUNIICの新委員長に就任したセルゲ・ブランメルツ(Serge Brammertz)判事は、シリアの高官への事情聴取を最重要視していると言われ[El Rafei 2006]、国際社会におけるシリア・バッシングは予談を許さない状態が続いた。

表 2005年に活動が確認された主な反政府組織のイデオロギー・政治潮流

イデオロギー・政治潮流	政治組織
アラブ民族主義 パアス主義	アラブ社会主義者運動 (Haraka al-Ishtirakiyyin al-'Arab) アブドゥルガニー・アイヤーシュ ('Abd al-Ghani 'Ayyash) 派 a d h アラブ社会主義パアス党民族指導部 (al-Qiyada al-Qawmiya) 派(ミシェル・アブラグ (Mishil 'Aflaq) 派) a d h アラブ社会民主主義パアス党 (Hizb al-Ba'th al-'Arabi al-Ishtiraki al-Dimuqrati) a d e h 民主統一パアス主義者連合 ('Tajammu' al-Ba'thiyyin al-Dimuqratiyyin al-Wahdawiyyin) h
ナセル主義	アラブ社会主義連合民主党 (Hizb al-Ittihad al-Ishtiraki al-'Arabi al-Dimuqrati) a d h
市民社会組織・文化会議・人権擁護団体	ジャマール・アターシー民主的対話会議 (Muntada Jamāl al-Atāsī li-l-Hiwār al-Dimuqrati) d h
マルクス主義	共産主義行動党 (Hizb al-'Amal al-Shuyū'i) d e h シリア民主人民党 (Hizb al-Sha'b al-Dimuqrati al-Sūri) a d e h
シリア民族主義	シリア民族社会党 (al-Hizb al-Sūri al-Qawmī al-Ijtima'i) インティファダ派 (Janah al-Intifada) e
イスラーム主義	シリア・ムスリム同胞団 (Jamā'a al-Ikhwān al-Muslimin fi Sūriyā) h
クルド民族主義	クルド・シリア民主合意 e g h クルド・シリア民主党 e シリア・クルディスタン民主パルティー f g シリア・クルド・アーザーディー党 b シリア・クルド・イェキーディー党 d g シリア・クルド国民民主党 b d h シリア・クルド左派翼イブラーヒーム派 b d e h シリア・クルド左派翼ムラード派 d シリア・クルド進歩民主党ダーウド派 b d e h シリア・クルド進歩民主党ダルウィーシュ派 c d h シリア・クルド人民連合党 d シリア・クルド民主党 (アル・パルティー) イブラーヒーム派 c d h シリア・クルド民主党 (アル・パルティー) ムスタファー派 b d h シリア・クルド民主統一党 (イェキーディー) c d h シリア・クルド・ムスタクハレ潮流 e f シリア民主連合党 西クルディスタン亡命政府 g
市民社会組織・文化会議・人権擁護団体	クルド・アラブ友好協会 (Jam'iya al-Sadāqa al-Kurdiya al-'Arabiya) g 国籍剥奪者権利擁護委員会 (Lajna al-Difa' 'an Huqūq al-Mujarradin min al-Jinsiya) d フェラード・ベドゥルハーン文化会議 (Muntada Celadet Bedirxan al-Thaqafi) f 殉教者マアシューク・ハズナウィー師クルド文化会議 (Muntada al-'Allāma al-Shahid Ma'shūq al-Khaznawī li-l-Thaqāfa al-Kurdiya) シリア人権・基本的自由擁護クルド機構 (al-Munazzama al-Kurdiya li-Difa' 'an Huqūq al-Insān wa al-Hurriyat al-'Amma fi Sūriyā, 通称DAD) シリア・クルド人権委員会 (アラビア語名 Lajna Huqūq al-Insān al-Kurdi fi Sūriyā, クルド語名 Malpera Mafē Mirovên Kurdê li Sūriyê, 通称Maf) シリア・クルド人権侵害監視団 (al-Marşad al-Kurdi li-Intihākāt Huqūq al-Insān fi Sūriyā, 通称RUWANGE)
その他	アッシリア民主機構 (al-Munazzama al-Āthūriya al-Dimuqrātiya) e h 国民民主自由主義者連合 ('Tajammu' al-Ahrār al-Waṭani al-Dimuqrāti) h 国民民主ムスタクハレ党 (Hizb al-Mustaqbal al-Watani al-Dimuqrati) e h 自由民主連合 (al-'Tajammu' al-Dimuqrāti al-Hurr) シリア改革党 (Hizb al-Islāh al-Sūri) h シリア近代民主主義党 (Hizb al-Hadātha wa al-Dimuqrātiya li-Sūriya) f h シリア国民会議 (al-Majlis al-Watani al-Sūri) h シリア国民民主ナフダ党 (Hizb al-Nahda al-Watani al-Dimuqrāti fi Sūriya) f シリア国民民主連合・TWD (al-'Tajammu' al-Watani al-Dimuqrāti al-Sūri TWD) g h シリア自由国民団結運動 (Haraka al-Hurriya wa al-Tadāmun al-Watani fi Sūriya) h シリア自由国民同盟足委員 (al-Hay'a al-Ta'sisiya li-Tabāluḥ al-Wataniyyin al-Ahrār fi Sūriya) h シリア文明民主党 (al-Hizb al-Hadāri al-Dimuqrāti al-Sūri) g シリア民主潮流 (al-Tayyār al-Sūri al-Dimuqrāti) シリア民主党 (al-Hizb al-Dimuqrāti al-Sūri) シリア民主同盟 (al-Tahaluf al-Dimuqrāti al-Sūri) g 自由民主主義者党 (Hizb al-Dimuqrātiyyin al-Ahrār) スィルヤーニー民主運動 (al-Haraka al-Dimuqrātiya al-Siryāniya) h 民族統一連合 (al-'Tajammu' al-Qawmi al-Muwahhad) リベラル民主世俗同盟 (al-'Tajammu' al-Librāli al-Dimuqrāti al-'Almāni)
市民社会組織・文化会議・人権擁護団体	国民自由青年連合 ('Tajammu' al-Shabāb al-Wataniyyin al-Ahrār) g 在カナダ・シリア国民協会 (al-Jam'iya al-Wataniya al-Sūriya fi Kanada) h 市民社会再生諸委員会 (Lijān Ihyā' al-Mujtama' al-Madani) d e h シャーム学生運動 (al-Haraka al-Tullābiya Shām) g シャーム民主研究センター (Markaz al-Shām li-l-Dirāsāt al-Dimuqrātiya) シリア・アラブ人権機構 (al-Munazzama al-'Arabiya li-Huqūq al-Insān fi Sūriya) d h シリア人権委員会 (al-Lajna al-Sūriya li-Huqūq al-Insān) h シリア人権協会 (Jam'iya Huqūq al-Insān fi Sūriya) d e シリアのための連合 (al-'Tajammu' min Ajl Sūriya) f g h シリア賠償和解同盟 (Tabāluḥ al-Qiṣas wa al-Muṣalaha al-Sūri) g シリア法律学センター (al-Markaz al-Sūri li-l-Dirāsāt al-Qanūniya) g シリア民主行動委員会 (al-Lajna al-Sūriya li-l-'Amal al-Dimuqrāti) h シリア民主的諸自由・人権擁護諸委員会 (Lijān al-Difa' 'an al-Hurriyat al-Dimuqrātiya wa Huqūq al-Insān fi Sūriya) d ミーマース文化情報センター (Markaz al-Mimās li-l-Thaqāfa wa al-'Ilām) h ラタキア国民民主行動委員会 (Lajna al-'Amal al-Watani al-Dimuqrāti fi al-Ladhaqiya) e

(注) a シリア国民民主連合 (al-'Tajammu' al-Watani al-Dimuqrāti fi Sūriya) 加盟組織, b シリア・クルド民主戦線加盟組織, c シリア・クルド民主同盟加盟組織, d 基本的自由・人権擁護国民調整委員会 (Lajna al-Tansiq al-Watani li-l-Difa' 'an al-Hurriyat al-Asāsiya wa Huqūq al-Insān) 参加組織, e デイル・ゾール国民民主委員会 (al-Lajna al-Wataniya al-Dimuqrātiya fi Dayr al-Zawr) 参加組織, f シリア国民大会 (al-Mu'tamar al-Watani al-Sūri) 主催組織, g 民主的対話のための国民会議・パリ1 (al-Multaqā al-Watani li-l-Hiwār al-Dimuqrāti Bāris 1) 主催・参加組織, h 「ダマスカス国民民主変革宣言」署名組織。

(出所) 筆者作成。

II 反政府勢力の動静

レバノンでの「独立インティファダ」と米仏によるシリア・バッシングは、シリアの反政府勢力のなかに「民主化ドミノ」を推進しようとする意志と「ネオ・リベラリユーン」(neoliberaliyyūn: 新自由主義者 的な傾向を高揚させた。すなわち、彼らは一方で、「独立インティファダ」に触発され、シリアにも「自由」と「民主主義」をもたらそうと活発に活動を展開するようになり、他方で、アサド政権に対する国際社会の非難に乗じるかたちで改革を要求していったのである[青山 2005d, 50; 島崎 2005]。そこで本節では、こうした気運のなかでシリアの主要な反政府勢力がどのような活動を行なったかを、六つの大きな動きに着目し、解説する。

なお、本誌第39号[青山 2005b, 59]で述べたとおり、シリアの政治勢力は、アラブ民族主義(バアス主義, ナセル主義), マルクス主義, シリア民族主義, イスラーム主義, クルド民族主義, その他(リベラリズムなど), という六つのイデオロギー・政治潮流に大別できるが、2005年に活動が確認された主な反政府組織がそれらのなかのどの潮流に属すかについては、表を参照されたい。

1. ハズナウィー・バヤーヌーニー会談

第1の動きは、クルド民族主義勢力と、ロンドンに活動拠点を置くシリア・ムスリム同胞団の共闘に向けた布石である。これは2005年2月15日、イスラーム研究センター(Markaz al-Dirāsāt al-Islāmiya)副所長を務めるクルド人シャイフ、ムハンマド・マアシューク・ハズナウィー

(Muḥammad Ma'shūq al-Khaznawī)師とシリア・ムスリム同胞団のアリー・サドルディーン・バヤーヌーニー('Alī Ṣadr al-Dīn al-Bayānūnī)最高監督者がブリュッセル郊外で2時間にわたり会談したのを機に始まった。

ハズナウィー師は、シリアの反政府勢力(クルド民族主義勢力)に身を置いていたわけではなかったが、この会談で、シリア・ムスリム同胞団が発表した「未来のシリアのための政治計画」[Jamā'a al-Ikhwān al-Muslimīn fi Sūriya 2004] (2004年12月16日発表)^{注13)}に賛同し、バヤーヌーニー最高監督者に「クルド問題」^{注14)}への明確な立場を示すよう求めた。そしてこの時の意見交換が、シリア・ムスリム同胞団による声明「クルド問題 シリア・ムスリム同胞団の視点

[Jamā'a al-Ikhwān al-Muslimīn fi Sūriya 2005b]^{注15)}の発表(2005年5月18日)を促し[*Akhbār al-Sharq* 2005e; 2005h; al-Bayānūnī 2005], その後の彼らとクルド民族主義勢力(さらにはシリア国内で活動するアラブ民族主義勢力やマルクス主義勢力)の接近を促す契機となった。

2. 基本的自由・人権擁護国民調整委員会によるデモ

第2の動きは、シリア国内で活動する反政府勢力の糾合である。この動きは、基本的自由・人権擁護国民調整委員会によって進められた。同委員会は、2005年1月半ばに結成された組織で、シリア国民民主連合(加盟組織は表を参照)、市民社会再生諸委員会、ジャマール・アターシー民主的対話会議、シリア人権協会、シリア民主的諸自由・人権擁護諸委員会、シリア・アラブ人権機構、共産主義行動党、シリア・クルド民主同盟、シリア・クルド民主戦線、シリア・ク

ルド・イエキーティー党, シリア・クルド人民連合党, 国籍剥奪者権利擁護委員会からなり, シリアの「国民的・民主的改革」を目的とした[青山 2006b, 20]注¹⁶。

基本的自由・人権擁護国民調整委員会による最初のデモは, 3月10日にダマスカス市内の司法裁判所前でなわれた。戒厳令発令(1963年3月8日)42周年とカーミシュリー事件(注¹⁷)発生(2004年3月12日)1周年に合わせて計画・実行されたこのデモで, 同委員会は約500人を動員し, 戒厳令の解除, すべての言論犯, 政治犯の釈放, 「クルド問題」の民主的解決などを要求した[*Lajna al-Tansiq al-Waṭani li-l-Difā' an al-Ḥurriyāt al-Asāsīya wa Ḥuqūq al-Insān* 2005a]。

しかし, デモはアラブ社会主義バアス党(*Ḥizb al-Ba'th al-'Arabi al-Ishṭirākī*)の青年党員による参加者の「襲撃」によって失敗に終わった[*Ḥizb Yakīti al-Kurdi fi Sūriyā al-Lajna al-Markazīya* 2005a; *al-Ḥizb al-Yasārī al-Kurdi fi Sūriyā Maktab al-I'lām al-Markazī* 2005]。こうした弾圧の背景には, アサド大統領が対レバノン政策で劣勢に立たされ, その指導力を疑問視されていたという事情があった。デモの5日前にあたる3月5日, アサド大統領は人民議会で異例の演説を行い, レバノン駐留シリア軍の完全撤退への意思を表明するなど, 苦渋の決断を強いられており, 反政府勢力に対する断固たる姿勢は, 政権の堅強さを誇示するうえで不可欠だったのである。事実, これ以外にもアサド政権は, 3月9日に, ダマスカス市内でアサド大統領への支持, レバノンとの連帯, 外国の圧力への反対を掲げる50万人規模のデモを組織し, 絶大な動員力と統制力を内外にアピールした[*Ḥamīdī* 2005a; *SANA* 2005a]。また3月30日には, 312人の政治犯(カ

ーミシュリー事件での逮捕者)を対象とした大統領恩赦を発令し, 反政府勢力への優位を見せつけようとした[*SANA* 2005c]。

3. シリア・ムスリム同胞団とシリア国民民主連合の接近

第3の動きは, シリア・ムスリム同胞団とシリア国民民主連合の接近である。

シリア・ムスリム同胞団は2005年4月5日, バアス党創設記念日(4月7日)と独立記念日(4月17日)に合わせるかたちで, 「救済のための国民的呼びかけ」を発表した[*Jamā'a al-Ikhwān al-Muslimīn fi Sūriyā* 2005a]。この声明で彼らは, アサド政権の内政と外交政策の双方を厳しく批判したうえで, すべての政治勢力と国民に, 国民的救済と改革を討議するための包括的国民大会の開催を呼びかけ, ①憲法第8条の廃止, ②政党法の制定, ③自由で公正な選挙, ④政治犯の釈放, 失踪者の行方調査, 権利剥奪者の復権, 亡命者の帰国, ⑤戒厳令解除と例外法・法廷の廃止, ⑥シリア社会の特殊性・多様性の承認, などを主唱したのである。

シリア・ムスリム同胞団は, 「政治活動のための国民尊厳憲章計画」[*Jamā'a al-Ikhwān al-Muslimīn fi Sūriyā* 2001]を発表した2001年半ば以来, こうした呼びかけを度々行ってきたが, 彼らの言動がシリア国内の反政府勢力によって受け入れられることはなかった[青山 2003, 97-99]。しかし, 駐留シリア軍がレバノンから撤退するなかで発表された「救済のための国民的呼びかけ」への反応は異なっていた。この呼びかけに対して, シリア国内で最も活発な活動を行なう反政府組織の一つであるシリア国民民主連合が4月17日に声明を出し, シリア・ムスリム

同胞団の「民主的志向」を高く評価するとともに、1980年法律第49号(注¹⁸)の廃止とシリア・ムスリム同胞団の政治的復権・政治参加を要求したのである[*al-Tajammu' al-Waṭānī al-Dīmuqrāṭī fī Sūriya* 2005]。そしてこれを機にシリアの反政府勢力は、イデオロギー・政治潮流や活動拠点の違いを越えて、共闘態勢をとるようになっていった。

4. 文化会議の断行

第4の動きは、アラブ民族主義勢力、マルクス主義勢力、クルド民族主義勢力などによる文化会議(*mintadā thaqāfiya*)(注¹⁹)会合の断行である。この動きは、アサド大統領が2005年3月5日の人民議会での演説で改革の必要を強調したことに触発されるかたちで本格化した[青山 2005d, 49-51]。

5月7日、ジャマール・アターシー民主的対話会議が、ダマスカス市郊外で政治改革を議論するための集会を開催した。国内の主要な反政府組織(注²⁰)の代表者が出席したこの会合では、同会議運営委員会メンバーのアリー・アブドゥッラー('Alī al-'Abd Allāh)氏がシリア・ムスリム同胞団のバヤーヌーニー最高監督者の政治声明を代読したほか、政治の自由化、戒厳令解除、憲法第8条の廃止などが要求された[島崎 2005 ; *Akhbār al-Sharq* 2005b]。また5月20日には、デイル・ゾール市で市民社会再生諸委員会のイニシアチブのもと、国民対話会合が開催された。この会合には、ラタキア国民民主行動委員会、シリア民主人民党、アッシリア民主機構、共産主義行動党、クルド・シリア民主合意、シリア・クルド左派党イブラーヒーム派、シリア・クルド・ムスタクバル潮流、アラブ社会民主

義バアス党、シリア民族社会党インティファード派、クルド・シリア民主党、シリア・クルド進歩民主党ダーウド派、シリア人権協会、国民民主ムスタクバル党、および無所属の活動家・有識者が参加した。そして、デイル・ゾール国民民主委員会の名で、「デイル・ゾール宣言」シリアは自由かつ民主的であり、すべての国民にとっての祖国である。』[*al-Lajna al-Waṭāniya al-Dīmuqrāṭiyya fī Dayr al-Zawr* 2005]を発表し、国民統合、クルド問題解決、民主化、人権保障、国民対話などを要求した。

これらの会合や声明発表は、「ダマスカスの春」(*rabi' dimashq*)(注²¹)の再来を予感させた。だが、アサド政権がとった行動は、「ダマスカスの春」を弾圧した時と同様、指導者の逮捕などを通じた封じ込めであった。

5月15日と24日、治安当局は、ジャマール・アターシー民主的対話会議のスハイル・アターシー(*Suhayl al-Atāsi*)代表やアブドゥッラー氏ら、同会議運営委員会メンバー9人(注²²)の身柄を拘束した。このうちアブドゥッラー氏を除く8人はまもなく釈放されたが、6月下旬、ジャマール・アターシー民主的対話会議は解散を命じられた[*Akhbār al-Sharq* 2005c ; 2005g ; *al-Hayāt* 2005a ; *al-Munazzama al-'Arabiya li-Huqūq al-Insān fī Sūriyā* Majlis al-Idāra 2005a ; 2005c ; *Muntadā Jamāl al-Atāsi li-l-Ḥiwār al-Dīmuqrāṭī* Majlis al-Idāra 2005]。また5月22日と24日には、治安当局による市民の不当逮捕を非難する声明を出し、政治改革と司法制度改革の必要性を訴えてきたシリア・アラブ人権機構のムハンマド・ラアドゥーン(*Muḥammad Ra'dūn*)会長とニザール・ラストゥナーウィ(*Nizār Rastunāwī*)事務局メンバーが逮捕された[*al-Munazzama al-'Arabiya*

li-Huqūq al-Insān fi Sūriyā Majlis al-Idāra 2005b ; 2005d] さらに5月29日には、市民社会活動家のハビーブ・サーリフ(Ḥabīb Ṣāliḥ)氏が逮捕され、6月4日には、市民社会再生諸委員会メンバーでデイル・ゾール国民民主委員会メンバーのリヤード・ダッラル(Riyād Darrār)氏が逮捕された [Lijān al-Difā' 'an al-Ḥurriyāt al-Dīmuqrāṭiyya wa Huqūq al-Insān fi Sūriyā Majlis al-Umanā' 2005a ; Lijān Iḥyā' al-Mujtama' al-Madanī fi al-Ḥasaka wa al-Qāmishli 2005]

その一方で、5月10日、シリア・ムスリム同胞団とクルド民族主義勢力の接近を促したハズナウィー師が、滞在先のダマスカス市で失踪し、同月31日、デイル・ゾール県で遺体で発見される事件が発生した。この事件は当初から治安当局の関与が疑われ、反政府勢力に対する封じ込め策の一環とみなされた(注23)。

これら一連の逮捕や事件に対して、反政府勢力は抗議デモを試みた。だがそれらもことごとく弾圧され(注24)、彼らの改革運動は再び挫折を経験したのである。

5. シリア国民大会と民主的対話のための国民会合・パリ1

第5の動きは、シリア国外に拠点をもつ反政府勢力による共闘態勢の確立に向けた試みである。弾圧に直面した国内の反政府勢力の活動を補うかたちで進められたこの動きは、パリを拠点とする市民社会団体、シリアのための連合(ファフド・アルガー・ミスリー [Fahd al-Arghā al-Miṣrī] スポークスマン)によって主導された。

2005年8月下旬、シリアのための連合は、シリア近代民主主義党、シリア国民民主ナフダ党、シリア・クルディスタン民主パルティー、シリア

ア・クルド・ムスタクバル潮流とともに声明を出し、9月26、27日にパリでシリア国民大会を開催すると告知し、バアス党、進歩国民戦線(al-Jabha al-Waṭaniyya al-Taqaddumiyya) (注25)、リファト・アサド(Rif'at al-Asad)前副大統領(民族安全保障担当)一派(民族統一連合)を除くシリアの反政府勢力に参加を呼びかけたのである [al-Mu'tamar al-Waṭani al-Sūri 2005]

この呼びかけに対して、他の反政府勢力の反応は冷ややかで、シリア・ムスリム同胞団、シリア国民民主連合、市民社会再生諸委員会、シリア・クルド・イエキーティー党、シリア国民会議、シリア民主行動委員会、在カナダ・シリア国民協会、シリア改革党が、「時期尚早」、「参加を認められない組織が多く存在する」、「外国の支援を受けた組織が主催している」といった理由で次々と出席を辞退した [Akhbār al-Sharq 2005m ; Amude.net 2005 ; Bakkūr 2005 ; al-Ghaḍbān 2005 ; Hizb al-Iṣlāḥ al-Sūri al-Maktab al-Siyāsī 2005 ; al-Jam'iyya al-Waṭaniyya al-Sūriyya fi Kanadā 2005a] またこうした事態を受け、主催者の足並みも乱れ、シリア国民民主ナフダ党、シリア・クルド・ムスタクバル潮流、シリア近代民主主義党が大会の開催を断念し、不参加を表明した [Hizb al-Nahḍa al-Waṭani al-Dīmuqrāṭī fi Sūriya et al. 2005]

これにより、シリア国民大会は開催中止を余儀なくされるかに思えた。だが、シリアのための連合は、シリア文明民主党、西クルディスタン亡命政府、シリア・クルディスタン民主パルティー、クルド・シリア民主合意とともにシリア国民大会を改組し、9月28日と29日に民主的対話のための国民会合・パリ1を開催したのである。この会合には、この主催5団体の他に、シリア民主同盟、クルド・アラブ友好協会、国民

自由青年連合, シヤーム学生運動, シリア・クルド・イエキーティー党(オブザーバー参加), シリア法律学センター(法務オブザーバー), シリア賠償和解同盟, シリア国民民主連合・TWD^(注26)が参加した。そして, これらの組織は会合で, すべての政治勢力が参加したかたちでの民主的・平和的方法による体制転換をめざすことなどを合意した[al-Mu'tamar al-Waṭani al-Sūri (al-Multaqā al-Waṭani li-l-Hiwār al-Dīmuqrāṭī Bārīs 1) 2005a ; 2005b]^(注27)。

シリア国民大会をめぐる反政府勢力間の不協和音は, 国内で活動する勢力と国外で活動する勢力の主導権争い, 外国による支援の是非など, 反政府勢力が古くから抱えてきた対立点を原因としていた。こうした不協和音は, 民主的対話のための国民会合・パリ1の開催でいったんは解消されたが, 共闘態勢の確立に向けた試みとは裏腹に, その後の彼らの活動に少なからぬ影響を及ぼしていった。

6. 「ダマスカス国民民主変革宣言」

第6の動きは, 現代シリア史上初となる, 国内外の反政府組織のイデオロギー・政治潮流を越えた糾合である。この動きは2005年10月16日の「ダマスカス国民民主変革宣言」['I'lān Dimashq li-l-Taghyir al-Waṭani al-Dīmuqrāṭī' 2005]の発表をもって実現した^(注28)。同宣言は, シリア国民民主連合, 市民社会再生諸委員会, シリア・クルド民主同盟, シリア・クルド民主戦線, 国民民主ムスタクバル党, そして無所属の有識者が連名で出した声明で, 民主主義の実現, 権威主義・全体主義の廃止, イスラームの尊重, 「クルド問題」の民主的解決, 戒厳令解除, 1980年法律第49条など例外的法律の廃止, 国民対話,

抜本的改革, 外圧に依拠した改革の拒否, 市民社会の活性化, 選挙の実施などを目標として掲げていた。

国内で活動するアラブ民族主義勢力, マルクス主義勢力, そしてクルド民族主義勢力が中心となって作成・発表した宣言は, 国内外のほとんどすべての反政府組織によってただちに支持された。すなわち, 宣言発表後数日のうちに, シリア・ムスリム同胞団, シリア近代民主主義党, シリアのための連合, ジャマール・アターシー民主的対話会議, シリア・アラブ人権機構, 共産主義行動党, アッシリア民主機構, シリア国民民主連合・TWD, シリア改革党, シリア人権委員会, クルド・シリア民主合意, シリア国民会議, シリア民主行動委員会, 民主統一バース主義者連合, シリア自由国民同盟発足委員会, 国民民主自由主義者連合, ミーマース文化情報センター, 在カナダ・シリア国民協会, スィルヤーニー民主運動, シリア自由国民団結運動が, 宣言への署名と宣言に基づく政治活動への参加を表明したのである['Antar 2005 ; al-Dayrī 2005a ; Hammūd 2005 ; al-Jam'iya al-Waṭaniya al-Sūriya fi Kanadā 2005b ; Khaḍr 2005 ; Markaz al-Mimās li-l-Thaqāfa wa al-I'lām 2005 ; al-Mawqif al-Dīmuqrāṭī 2005, 20-42]

10月30日, 宣言に署名した組織や活動家は, ダマスカス市内でダマスカス宣言暫定委員会(al-Lajna al-Mu'aqqata li-I'lān Dimashq)を結成し, 改革要求を本格化させようとした[al-Lajna al-Mu'aqqata li-I'lān Dimashq 2005a]。しかしその活動は二つの阻害要因によって困難を極めた。

第1の阻害要因はアサド政権による弾圧である。UNIICの第1回報告書提出を機にシリア・バッシングが再び強まるなかで出された「ダマ

スカス国民民主変革宣言」に対して、アサド政権は断固たる態度で臨み、11月13日、ダマスカス市内で予定されていたダマスカス宣言暫定委員会の会合を強制的に中止させた[al-Lajna al-Sūriya li-Ḥuqūq al-Insān 2005a]^{注29)}。また、宣言を掲載したシリア国民民主連合の機関紙『マウキフ・ディームクラティー』(*al-Mawqif al-Dimuqrātī*)特集号が国内で配付されると、12月初め、治安当局は同連合スポークスマン兼アラブ社会主義連合民主党書記長のハサン・アブドゥルアズィーム(Hasan 'Abd al-'Azīm)弁護士を軍事裁判所に起訴する決定を下し、12月18日の同裁判所への出廷を要請した[al-Munazzama al-'Arabiya li-Ḥuqūq al-Insān fī Sūriyā Majlis al-Idāra 2005f]^{注30)}。

第2の阻害要因は、「ダマスカス国民民主変革宣言」の作成・署名によって、反政府運動の主導権を奪われることを懸念した一部の反政府組織による拒否主義である。これらの組織は、シリアに外圧を加える米国に利するような宣言発表のタイミングや、マイノリティ民族・宗派を軽視したその改革プログラムに異議を唱え、宣言への署名を拒否していった[Ḥamīdi 2005c ; Lijān al-Difā' 'an al-Ḥurrīyāt al-Dīmuqrāṭīya wa Ḥuqūq al-Insān fī Sūriyā Majlis al-Umanā' 2005b]。そのなかには、シリア民主的諸自由・人権擁護諸委員会、シリア民主潮流、自由民主連合などが含まれていたが、宣言をめぐる一連の動きに最も強く反対したのがクルド民族主義勢力に属すシリア・クルド・イエキーティー党、シリア・クルド・アーザーディー党、シリア・クルド・ムスタクバル潮流、シリア民主連合党、クルド・シリア民主党、シリア・クルディスタン民主パルティー、西クルディスタン亡命政府、シリア・クル

ド人権委員会であった[*Akhbār al-Sharq* 2005q ; *al-Mawqif al-Dīmuqrātī* 2005, 33-34 ; al-Tayyār al-Sūrī al-Dīmuqrātī 2005]。

以上、2005年におけるシリアの反政府勢力の活動を概観すると、そこには、①アサド政権の政治的危機に乗じるかたちでの合従連衡と、②主導権争い・路線対立、という二つの相矛盾する志向を見い出すことができる。そして、これら二つの志向は、反政府勢力の再活性化によってもたらされた結果であると同時に、彼らの活動を再び挫折へと追いやる原因でもあった。

Ⅲ クルド民族主義政党・政治組織、政治同盟の活動(50音順)

第Ⅱ節でみたとおり、ハリリー元首相暗殺に伴う政情の変化は、シリアの反政府勢力の再活性化をもたらしたが、そのなかで最も活発な活動を展開した勢力の一つがクルド民族主義勢力であった。そこで本節では、2005年に活動が確認された主なクルド民族主義政党・政治組織、政治同盟(本誌第39,40号[青山2005b;2006b]で紹介できなかったシリア・クルド・アーザーディー党、シリア・クルド・ムスタクバル潮流、西クルディスタン亡命政府を含む17の政党・政治組織と二つの政治同盟)の活動を個別に解説する(注31)。

1. 政党・政治組織

(1)クルド・シリア民主合意

アラビア語名：

al-Wifāq al-Dīmuqrātī al-Kurdi al-Sūrī

2004年2月、クルディスタン労働者党(*Partiya Karkeren Kurdistan* : 以下、PKK)の元メンバーが結成。党首はカマール・シャーヒーーン

(Kamāl Shāhīn, 2005年2月にイラクで暗殺)総合調整局(al-Munassiqiyya al-‘Āmma)議長(al-Munassiq al-‘Āmm)〔青山2005b, 64-65〕

2005年の主な活動は以下のとおり。

5月20日、「デイル・ゾール宣言」の発表に参加(第Ⅱ節第4項参照)。

5月21日, シリア・クルド・イエキーティエ党, シリア・クルド・ムスタクパル潮流, シリア・クルド人民連合党とともに, カーミシュリー市でデモを実施。約1500人を動員し, ハズナウィー師失踪殺害事件の真相究明, 「クルド問題」の解決, 戒厳令の解除, 政治犯の釈放を要求[Hizb Yakīti al-Kurdī fi Sūriyā al-Lajna al-Markaziya 2005c; 2005d; al-Lajna al-Kurdiya li-Huqūq al-Insān fi Sūriyā 2005; Tayyār al-Mustaqbal al-Kurdī fi Sūriyā 2005b]

9月28～29日, 民主的対話のための国民会合・パリ1を主催(第Ⅱ節第5項参照)。

11月1日, 「クルド問題解決プログラム」[al-Wifāq al-Dīmuqrāṭī al-Kurdī al-Sūri 2005a]を発表し, 憲法改正を通じたクルド人の自治などを骨子とするクルド問題の民主的かつ公正な解決を提案。

11月7日, 「ダマスカス国民民主変革宣言」への署名を発表[al-Wifāq al-Dīmuqrāṭī al-Kurdī al-Sūri 2005b]

その一方で, クルド・シリア民主合意の指導者・党員は度々「暗殺テロ」にさらされた。2月17日深夜から18日未明にかけて, イラクのスレイマニヤでシャーヒーン総合調整局議長が, 8月12日, アレッポ市でカーミーラーン・ムハンマド・ハムザ(Kāmīrān Muḥammad Ḥamza)党員が暗殺された[al-Wifāq al-Dīmuqrāṭī al-Kurdī al-Sūri 2005c; 2005d] また, 7月10日にはアレッポ市

でブルハーン・ディーン・アリー・シャーヒーン(Burhān al-Dīn ‘Alī Shāhīn)組織会議(Majlis al-Tanzīm)メンバーとハッジー・アフリーニー(Hajjī ‘Afrīnī)総合調整局メンバーが, 9月10日にはアフリーン市でナディーム・ユースフ(Nadīm Yūsuf)総合調整局メンバーが暗殺未遂に遭った[*Akhbār al-Sharq* 2005i; al-Munazzama al-‘Arabīya li-Huqūq al-Insān fi Sūriyā Majlis al-Idāra 2005e] これらの「暗殺テロ」の背景には, クルド・シリア民主合意と同じくPKKの後身団体として発足したシリア民主連合党との「正統性」争いがあるとされている[*Akhbār al-Sharq* 2005o]

(2)クルド・シリア民主党

アラビア語名:

al-Ḥizb al-Dīmuqrāṭī al-Kurdī al-Sūri

クルド語名:

Partiya Demokrat a Kurd a Sūri

1975年, シリア・クルド民主党(al-Ḥizb al-Dīmuqrāṭī al-Kurdī fi Sūriyā, 1958年にシリア・クルディスタン民主党[al-Ḥizb al-Dīmuqrāṭī al-Kurdistānī fi Sūriyā]が改称)の離反者が結成。党首はジャマール・ムハンマド・バーキー(Jamāl Muḥammad Bāqī)書記長[青山2005b, 65]

2005年の主な活動は以下のとおり。

3月3日, シリア・クルド民主同盟, シリア・クルド民主戦線, シリア・クルド人民連合党と共同声明を出し, カーミシュリー事件発生1周年にあたる3月12日に, 犠牲者を悼んで5分間の黙祷を行なうよう呼びかける[al-Taḥāluf al-Dīmuqrāṭī al-Kurdī fi Sūriyā et al. 2005]

5月20日, 「デイル・ゾール宣言」の発表に参加(第Ⅱ節第4項参照)。

10月4日「例外的統計」(al-iḥṣā’ al-istithnā’i)注³²⁾

43周年に合わせて、党幹部5人が首相府を訪問し、国籍を剥奪されたクルド人の権利回復を求める書簡を提出[al-Ḥizb al-Dīmuqrāṭī al-Kurdī al-Sūrī al-Nāṭiq al-Rasmī 2005]

11月13日、声明を出し、「政権との断交は[シリアが内外に抱える]問題の解決に寄与しない」との理由で「ダマスカス国民民主変革宣言」への署名を拒否[al-Ḥizb al-Dīmuqrāṭī al-Kurdī al-Sūrī al-Maktab al-Siyāsī 2005]

11月24日、シリア・クルド・アーザーディー党の呼びかけのもと、シリア・クルド・イエキーティエ党、シリア・クルド民主党(アル・パルティー)ムスタファー派とともにカーミシュリー市で会合を開き、クルド民族主義勢力の共闘態勢について議論[Ḥizb Āzādī al-Kurdī fī Sūriyā al-Maktab al-Siyāsī 2005]

(3)シリア・クルディスタン民主パルティー
アラビア語名：

Bārtī Dīmuqrāṭī Kurdistān Sūriyā

クルド語名：

Partiya Democrat a Kurdistanê Sūriyê

2000年に結成。党首はタウフィーク・ハムドゥーシュ(Tawfiq Ḥamdūsh)指導委員会(al-Lajna al-Qiyādīya)議長[青山 2005b, 65-66 ; Bārtī Dīmuqrāṭī Kurdistān Sūriyā 2006 ; al-Taḥāluf al-Dīmuqrāṭī al-Sūrī 2004]

2005年の主な活動は以下のとおり。

8～9月、シリア国民大会の開催を呼びかけ、民主的対話のための国民会合・パリ1を主催(第Ⅱ節第5項参照)

10月18日、声明を出し、「クルド問題に関する文言を修正すれば、『ダマスカス国民民主変革宣言』を支持する」との立場を明示し、宣言への署

名を拒否[Bārtī Dīmuqrāṭī Kurdistān Sūriyā al-Lajna al-Qiyādīya 2005]

(4)シリア・クルド・アーザーディー党

アラビア語名：

Ḥizb Āzādī al-Kurdī fī Sūriyā

クルド語名：

Partiya Azadi ya Kurd li Sūriyê

2005年5月21日、シリア・クルド左派党ムロード派とシリア・クルド人民連合党が合併・結成した政党で、「アーザーディー」(azadī)はクルド語で「自由」を意味する。シリア・クルド左派党ムロード派がシリア・クルド・イエキーティエ党とシリア・クルド人民連合党に対して行なった合併の呼びかけ(3月29日)に、シリア・クルド人民連合党が応えたこと(4月14日)で結党が実現した^(注33)。シリア・クルド左派党ムロード派のハイルッディーン・ムラード(Khayr al-Dīn Murād)書記長が党首(書記長)に就任し、シリア・クルド人民連合党のムスタファー・ジユムア(Muṣṭafā Jum'a)書記長とバッシュャール・アミン(Bashshār Amīn)政治局メンバーがムラード書記長とともに執行部(Maktab Amāna)メンバーに就任した[Ḥizb Āzādī al-Kurdī fī Sūriyā al-Lajna al-Markazīya 2005a ; Ḥizb al-Ittiḥād al-Sha'bī al-Kurdī fī Sūriyā al-Lajna al-Markazīya 2005 ; al-Ḥizb al-Yasārī al-Kurdī fī Sūriyā al-Lajna al-Markazīya 2005]

10月半ばに作成された内規案において、シリア・クルド・アーザーディー党は自らを「シリアにおけるクルド民族主義運動の民主的陣営、シリアにおける民主的運動の一部……、クルディスタン国民解放運動の探求者」と位置づけ、①民主主義の実現、②憲法におけるクルド人の

シリア第2の民族としての承認, ③自発的かつ自由な連邦制を基礎とする他民族との共存, などを目標に掲げている[Hizb Āzādī al-Kurdī fi Sūriyā al-Lajna al-Markazīya 2005b]。結党と同時に, シリア・クルド民主戦線への加盟を宣言したが, 2006年3月, 活動方針の相違を理由に加盟を凍結した[Hizb Āzādī al-Kurdī fi Sūriyā al-Lajna al-Markazīya 2005a; 2006]。

結党後の主な活動は以下のとおり。

6月5日, シリア・クルド・イエキーティー党とともに, カーミシュリー市でデモを実施。数千人を動員し, ハズナウィー師失踪殺害事件に抗議するとともに, 「クルド問題」の民主的解決, 政党法制定, 戒厳令解除, 国民統合強化, 政治犯釈放などを要求。デモ参加者は事態の沈静化のために動員された治安当局と衝突し, 治安当局2人が死亡, クルド人3人が負傷, 60人以上が逮捕・起訴。デモはアイン・アル=アラブ市でも実施され, 8人が逮捕される[Hizb Āzādī al-Kurdī fi Sūriyā and Hizb Yakīti al-Kurdī fi Sūriyā 2005a; 2005b; *al-Hayāt* 2005b]。

7月末, 党の代表が, シリア・クルド・イエキーティー党とシリア民主連合党の代表とともに政府高官と会見。クルド人への差別の撤廃, 政治犯釈放をめぐる意見を交わし, 大統領との会見の約束をとりつける[Hizb Āzādī al-Kurdī fi Sūriyā 2005a]。

9月8日, 基本的自由・人権擁護国民調整委員会の会合で, シリア・クルド・イエキーティー党とともに, 「例外的統計」43周年に合わせたデモの計画を主導[*Akhbār al-Sharq* 2005p]。

10月18日, 声明を出し, 「ダマスカス国民民主変革宣言」への署名を「シリア第2の民族としてのクルド人の現状を反映していない」という

理由で拒否[Hizb Āzādī al-Kurdī fi Sūriyā 2005b]。

11月, アレッポ市で, シリア・クルド・イエキーティー党, シリア・クルド・ムスタクバル潮流, シリア国民民主ナフダ党, 市民社会再生諸委員会, アッシリア民主機構, シリア民族社会党インティファード派, シリア民主的諸自由・人権擁護諸委員会, シリア民主党など^(注34)と会合を重ね, 「ダマスカス国民民主変革宣言」におけるクルド人の規定について意見を交換。しかし会合は, クルド人民やクルド民族主義勢力の運動の関係などをめぐる意見の対立で物別れに終わる[Hizb Yakīti al-Kurdī fi Sūriyā and Hizb Āzādī al-Kurdī fi Sūriyā 2005]。

11月24日, クルド・シリア民主党, シリア・クルド・イエキーティー党, シリア・クルド民主党(アル・パールティー)ムスタファー派とともにカーミシュリー市で会合を開き, クルド民族主義勢力の共闘態勢について議論(第Ⅲ節第1項⁽²⁾参照)。

(5)シリア・クルド・イエキーティー党

アラビア語名:

Hizb Yakīti al-Kurdī fi Sūriyā

クルド語名:

Partiya Yekiti ya Kurd li Sūriyê

1992年から93年にかけてシリア・クルド人民連合党の離反者らが結成。党首はアブドゥルバーキー・アル=ユースフ(‘Abd al-Bāqī al-Yūsuf, ユースフに定冠詞「アル=」がつく)中央委員会(al-Lajna al-Markazīya)書記長[青山 2005b, 66-68]。

2005年の主な活動は以下のとおり。

2月15日, シリア・クルド左派党ムラード派, シリア・クルド人民連合党とともに, ダマスカ

ス市内の国家最高治安裁判所前でデモを実施。数百人を動員し、カーミシュリー事件で逮捕されたクルド人の公判に抗議[*Ḥizb Yakīti al-Kurdī fī Sūriyā al-Lajna al-Qānūniya* 2005]

3月5日、カーミシュリー事件発生1周年にあたる3月12日に犠牲者を悼んで5分間の黙祷を行なうよう呼びかけたシリア・クルド民主同盟、シリア・クルド民主戦線、シリア・クルド人民連合党、クルド・シリア民主党の共同声明を支持し(第Ⅲ節第1項(2)参照)、この動きに同調する意思を表明[*Ḥizb Yakīti al-Kurdī fī Sūriyā al-Lajna al-Markaziya* 2005a]

3月12日、カーミシュリー市でカーミシュリー事件犠牲者の追悼集会を主催し、約5000人が参列[*Ḥizb Yakīti al-Kurdī fī Sūriyā Munazzama Biljika* 2005]

5月21日、クルド・シリア民主合意、シリア・クルド・ムスタクバル潮流、シリア・クルド人民連合党とともに、カーミシュリー市でデモを実施(第Ⅲ節第1項(1)参照)。

6月2日、シリア・クルド民主統一党(イエキティー)とともに、アレppo大学でデモを実施。約1000人の学生を動員し、ハズナウィー師失踪殺害事件を「テロ」行為と非難[*Ḥizb Yakīti al-Kurdī fī Sūriyā and Ḥizb al-Waḥda al-Dīmuqrāṭī al-Kurdī fī Sūriyā (Yakīti) Munazzama Jāmi'a Ḥalab* 2005]

6月5日、シリア・クルド・アーザーディー党とともに、カーミシュリー市でデモを実施(第Ⅲ節第1項(4)参照)。

7月末、党の代表が、シリア・クルド・アーザーディー党とシリア民主連合党の代表とともに政府高官と会見(第Ⅲ節第1項(4)参照)。

9月8日、基本的自由・人権擁護国民調整委員

会の会合で、シリア・クルド・アーザーディー党とともに、「例外的統計」43周年に合わせたデモの計画を主導(第Ⅲ節第1項(4)参照)。

8～9月、シリア国民大会への参加を「政権転覆を党が目的としていない」[*Akhbār al-Sharq* 2005n]という理由で辞退したが、民主的対話のための国民会合・パリ1にはオブザーバーとして出席(第Ⅱ節第5項参照)。

10月16日、声明を出し、「ダマスカス国民民主変革宣言」への署名を「クルド人の[民族としての]権利に上限を設けようとしている」という理由で拒否[*Ḥizb Yakīti al-Kurdī fī Sūriyā al-Lajna al-Siyāsiya* 2005b]

11月、アレppo市で、シリア・クルド・アーザーディー党、シリア・ムスタクバル潮流などとともに「ダマスカス国民民主変革宣言」におけるクルド人の規定について意見を交換(第Ⅲ節第1項(4)参照)。

11月24日、シリア・クルド・アーザーディー党の呼びかけのもと、クルド・シリア民主党、シリア・クルド民主党(アル・パルティー)ムスタファー派とともにカーミシュリー市で会合を開き、クルド民族主義勢力の共闘態勢について議論(第Ⅲ節第1項(2)参照)。

12月10日、シリア・クルド・ムスタクバル潮流とともに、世界人権の日に合わせて、ダマスカス市内のサブウ・パフラート広場でデモを実施。約200人を動員し、人権尊重、民主化、クルド人の民族的権利の憲法での保障などを要求。これに対して治安当局はデモを強制解除[*Ḥizb Yakīti al-Kurdī fī Sūriyā and Tayyār al-Mustaqbal al-Kurdī fī Sūriyā* 2005]

(6) シリア・クルド国民民主党

アラビア語名：

al-Ḥizb al-Dīmuqrāṭī al-Waṭanī al-Kurdī fi
Sūriyā

結成年は不明。党首はターヒル・サフーク
(Ṭāhir Safūk)書記長[青山 2005b, 68]

2005年10月初め、「ダマスカス国民民主変革
宣言」の発表に先立って、シリア国民民主連合、
シリア・クルド民主同盟、シリア・クルド民主党
(アル・パルティー)ムスタファー派、シリア・ク
ルド進歩民主党ダーウド派と共同声明を出し、
国民的、民主的な改革および体制の構築に合意
したことを発表した(注28参照)。これ以外に党
独自の活動はほとんど見られず、シリア・クルド
民主戦線の枠内で活動した(第Ⅲ節第2項(1)参
照)。

(7) シリア・クルド左派党イブラーヒーム派

アラビア語名：

al-Ḥizb al-Yasārī al-Kurdī fi Sūriyā

クルド語名：

Partiya Çep a Kurd li Sūriyê

1965年にシリア・クルド民主党の離反者が結
成したシリア・クルド左派党の後身。党首はハ
イルッディーン・イブラーヒーム(Khayr al-Dīn
Ibrāhīm)書記長[青山 2005b, 68-69]

2005年5月20日、「デイル・ゾール宣言」の発
表に参加(第Ⅱ節第4項参照)した以外、党独自
の活動はほとんど見られず、シリア・クルド民主
戦線加盟政党の枠内で活動した(第Ⅲ節第2項(1)
参照)。

(8) シリア・クルド左派党ムラード派

1965年にシリア・クルド民主党の離反者が結

成したシリア・クルド左派党の後身。党首はハ
イルッディーン・ムラード書記長[青山 2005b,
68-69]

2005年の主な活動は以下のとおり。

2月15日、シリア・クルド・イエキーティー党、
シリア・クルド人民連合党とともに、ダマスカス
市内の国家最高治安裁判所前でデモを実施(第
Ⅲ節第1項(5)参照)。

3月29日、シリア・クルド・イエキーティー党
とシリア・クルド人民連合党に合併を呼びかけ
る(第Ⅲ節第1項(4)参照)。

5月21日、シリア・クルド人民連合党と合併し、
シリア・クルド・アーザーディー党を結成(第Ⅲ
節第1項(4)参照)。

(9) シリア・クルド進歩民主党ダルウィーシュ派

アラビア語名：

al-Ḥizb al-Dīmuqrāṭī al-Taqaddumī al-Kurdī fi
Sūriyā

クルド語名：

Partiya Dêmoqrati Pêşverû Kurd li Sūriyê

1977年にシリア・クルド民主党の離反者が結
成。党首はアブドゥルハミード・ダルウィーシ
ユ(‘Abd al-Ḥamīd Darwīsh)書記長[青山 2005b,
70-71]

2005年6月13日、シリア・クルディスターン民
主党結成記念(1957年6月14日)の祝典を計画す
るが、当局の介入によって中止を余儀なくされ
る[al-Ḥizb al-Dīmuqrāṭī al-Taqaddumī al-Kurdī fi
Sūriyā al-Maktab al-Siyāsī 2005]。これ以外に党
独自の活動はほとんど見られず、シリア・クルド
民主同盟加盟政党として同盟およびシリア・ク
ルド民主戦線を主導した(第Ⅲ節第2項(1)(2)参
照)。

(10)シリア・クルド進歩民主党ダーウド派

1980年代初めにシリア・クルド進歩民主党ダ
ルウィーシュ派から分離。党首はアズィーズ・ダ
ーウド(‘Aziz Dāwud)書記長[青山2005b, 70-71]
2005年の主な活動は以下のとおり。

5月7日, ジャマール・アターシー民主的対
話会議定例会合でダーウド書記長が改革につい
て講演[Dāwud 2005]

5月20日, 「デイル・ゾール宣言」の発表に参
加(第Ⅱ節第4項参照)。

10月初め, 「ダマスカス国民民主変革宣言」発
表に先立って, シリア国民民主連合, シリア・ク
ルド民主同盟, シリア・クルド民主党(アル・パ
ルティー)ムスタファー派, シリア・クルド国民
民主党と共同声明を出し, 国民的, 民主的な改革
および体制の構築に合意したことを発表(注28
参照)。

またこれ以外にも, シリア・クルド民主戦線の
枠内で活動を行なった(第Ⅲ節第2項(1)参照)。

(11)シリア・クルド人民連合党

アラビア語名:

Hizb al-Ittiḥād al-Sha’bī al-Kurdī fi Sūriyā

クルド語名:

Partiya Hevgirtina Gelê Kurd li Sūriyê

1980年にシリア・クルド左派党の離反者が結
成。党首はムスタファー・ジュムア書記長[青山
2005b, 71-73]

2005年の主な活動は以下のとおり。

2月15日, シリア・クルド・イエキーティー党,
シリア・クルド左派党ムラード派とともに, ダマ
スカス市内の国家最高治安裁判所前でデモを実
施(第Ⅲ節第1項(5)参照)。

3月3日, シリア・クルド民主同盟, シリア・ク

ルド民主戦線, クルド・シリア民主党とともにカ
ーミシュリー事件発生1周年にあたる3月12日
に犠牲者を悼んで5分間の黙祷を行なうよう呼
びかける(第Ⅲ節第1項(2)参照)。

5月21日, クルド・シリア民主合意, シリア・ク
ルド・イエキーティー党, シリア・クルド・ムスタ
クバル潮流とともに, カーミシュリー市でデモ
を実施(第Ⅲ節第1項(1)参照)。

5月21日, シリア・クルド左派党ムラード派と
合併し, シリア・クルド・アーザーディー党を結
成(第Ⅲ節第1項(4)参照)。

(12)シリア・クルド民主党(アル・パルティー)

イブラーヒーム派

アラビア語名:

al-Hizb al-Dīmuqrāṭī al-Kurdī fi Sūriyā(al-
Bārti)

クルド語名:

Partiya Demokrat ya Kurd li Sūriyê (al Partî)

1957年に結成されたシリア・クルド民主党の
後身。党首はナスルッディーン・イブラーヒー
ム(Naşr al-Dīn Ibrāhīm)書記長[青山 2005b,
73-75]

2005年は党独自の活動はほとんど見られず,
シリア・クルド民主同盟の枠内で活動した(第Ⅲ
節第2項(2)参照)。

(13)シリア・クルド民主党(アル・パルティー)

ムスタファー派

1957年に結成されたシリア・クルド民主党の
後身。党首はムハンマド・ナズィール・ムスタ
ファー(Muḥammad Nadhīr Muştafā)書記長[青山
2005b, 73-75]

2005年の主な活動は以下のとおり。

10月初め、「ダマスカス国民民主変革宣言」発表に先立って、シリア国民民主連合、シリア・クルド民主同盟、シリア・クルド国民民主党、シリア・クルド進歩民主党ダーウド派と共同声明を出し、国民的、民主的な改革および体制の構築に合意したことを発表(注28参照)。

11月24日、シリア・クルド・アーザーディー党の呼びかけのもと、クルド・シリア民主党、シリア・クルド・イエキーティー党とともにカーミシュリー市で会合を開き、クルド民族主義勢力の共闘態勢について議論(第Ⅲ節第1項(2)参照)。

またこれ以外にも、シリア・クルド民主戦線の枠内で活動を行なった(第Ⅲ節第2項(1)参照)。

(14)シリア・クルド民主統一党(イエキーティー)

アラビア語名:

Hizb al-Waḥḍa al-Dīmuqrāṭī al-Kurdī fī Sūriyā
(Yakīti)

クルド語名:

Partiya Yekîti ya Demokrat ya Kurd li Sûriyê
(Yekîti)

シリア・クルド・イエキーティー党結党過程で離反した活動家が1993年に結成。党首はムフイーディーン・シャイフ・アーリー(Muḥyî al-Dîn Shaykh Âlî)書記長[青山2005b, 75-77]。

2005年の主な活動は以下のとおり。

5月15日、マフムード・アリー・ムハンマド(Maḥmūd 'Alī Muḥammad)政治委員会(al-Lajna al-Siyāsīya)メンバーの公判(イラク訪問を理由に逮捕)に抗議するため、ダマスカス市内の国家最高治安裁判所で約500人を動員しデモを実施[Hizb al-Waḥḍa al-Dīmuqrāṭī al-Kurdī fī Sūriyā (Yakīti) al-Lajna al-Siyāsīya 2005a]^{注35)}。

6月2日、シリア・クルド・イエキーティー党

とともに、アレッポ大学でデモを実施(第Ⅲ節第1項(5)参照)。

またこれ以外にも、シリア・クルド民主同盟の枠内で活動を行なった(第Ⅲ節第2項(2)参照)。

(15)シリア・クルド・ムスタクバル潮流

アラビア語名:

Tayyār al-Mustaḥbal al-Kurdī fī Sūriyā

2005年5月29日に正式に発足した政治組織[Tayyār al-Mustaḥbal al-Kurdī fī Sūriyā 2005c]。結成に先立って発表された内規案(5月11日公表)によると、シリア・クルド・ムスタクバル潮流は、「シリアにおけるクルド民族主義運動の一形態、シリアの国民的民主的運動の一部」であり、「大衆を基盤とし……、政治的・平和的闘争を通じて……[クルド]民族主義的目的と国益の調和」をめざす[Tayyār al-Mustaḥbal al-Kurdī fī Sūriyā 2005a]。党首はミシュアル・タンムー(Mish'al al-Tammū)スポークスマン。

結成後の主な活動は以下のとおり。

5月20日、「デイル・ゾール宣言」の発表に参加(第Ⅱ節第4項参照)。

5月21日、クルド・シリア民主合意、シリア・クルド・イエキーティー党、シリア・クルド人民連合党とともに、カーミシュリー市でデモを実施(第Ⅲ節第1項(1)参照)。

6月5日、シリア・クルド・アーザーディー党とシリア・クルド・イエキーティー党がカーミシュリー市で組織・実施したデモ(第Ⅲ節第1項(4)参照)への団結の意志を表明し、参加[Tayyār al-Mustaḥbal al-Kurdī fī Sūriyā 2005d]。

8～9月、シリア国民大会の開催を呼びかけるが、その後参加を辞退(第Ⅱ節第5項参照)。

10月18日、声明を出し、「ダマスカス国民民主

変革宣言」への署名を「クルド人の民族としての存在に言及していない」という理由で拒否 [Tayyār al-Mustaqbal al-Kurdî fi Sūriyā Maktab al-‘Alāqāt al-‘Āmma 2005]

11月,アレッポ市で,シリア・クルド・イエキーターティー党,シリア・クルド・アーザーディー党などととも「ダマスカス国民民主変革宣言」におけるクルド人の規定について意見を交換(第Ⅲ節第1項⁽⁴⁾参照)。

12月10日,シリア・クルド・イエキーター党とともに,世界人権の日に合わせて,ダマスカス市内のサブウ・パフラート広場でデモを実施(第Ⅲ節第1項⁽⁵⁾参照)。

(16)シリア民主連合党

アラビア語名:

Hizb al-Ittihad al-Dimuqrati fi Suriya

クルド語名:

Partiya Yekiti ya Demokratik

2003年9月にPKKの元メンバーが結成。党首はフアード・ウマル(Fu'ad 'Umar)書記長[青山2005b, 77-78]

2005年の主な活動は以下のとおり。

7月末,党の代表が,シリア・クルド・イエキーターター党とシリア・クルド・アーザーディー党の代表とともに政府高官と会見(第Ⅲ節第1項⁽⁴⁾参照)。

8月15日,アイン・アル=アラブ市でPKK結党を祝う祝典を開催。祝典は治安当局の介入で強制解除され,57人が逮捕[Akhhār al-Sharq 2005]]

10月19日,声明を出し,「ダマスカス国民民主変革宣言」への署名を「憲法においてクルド人を第2の民族として承認する」との要求が盛り込まれていない」という理由で拒否[Hizb al-Ittihad

al-Dimuqrati fi Suriya al-Lajna al-Tanfidihiya 2005]

12月10日,カーミシュリー市でフォーラムを開催し,アブドゥッラー・オジャラン(Abdullah Ocalan)PKK元党首の思想について議論[Hizb al-Ittihad al-Dimuqrati fi Suriya al-Maktab al-'lami 2005b]

12月11日,世界人権の日に合わせて,ダマスカス市内の国家最高治安裁判所前でデモを実施。約100人を動員し,クルド人政治犯の釈放を要求[Hizb al-Ittihad al-Dimuqrati fi Suriya al-Maktab al-'lami 2005a]

(17)西クルディスタン亡命政府

アラビア語名:

Hukuma Gharb Kurdistan fi al-Manfa

2004年4月25日,ドイツのヘルネで開催された亡命クルド人による大会で結成が宣言された組織。議長はリズガール・カースィム(Rizghār Qāsim)が務める。クルディスタンの独立とクルド人国家の樹立を掲げ,①シリア政府による弾圧からクルド人を守るための国連軍の派遣,②シリア政府によるクルド人弾圧を裁くための国際法廷の開設,③シリア国内での投獄・拷問に対するクルド人の擁護,④米国による対シリア制裁などを求める[Kurdish Media 2004]

2005年の主な活動は以下のとおり。

9月28~29日,民主的対話のための国民会合・パリ1を主催(第Ⅱ節第5項参照)。

10月,「ダマスカス国民民主変革宣言」への署名を拒否(第Ⅱ節第6項参照)。

なお,2006年1月,西クルディスタン亡命政府はシリア・クルディスタン民主変革運動(Haraka al-Taghyir al-Dimuqrati al-Kurdistani fi

Sūriya) に改称した [Ḥaraka al-Taghyīr al-Dīmuqrāṭī al-Kurdīstāni fī Sūriyā 2006]

2. 政治同盟

(1) シリア・クルド民主戦線

アラビア語名：

al-Jabha al-Dīmuqrāṭīya al-Kurdiya fī Sūriyā

クルド語名：

Bera Demokrat a Kurd li Sūriyê

2001年に発足した政治同盟。2006年3月現在の加盟政党は、シリア・クルド民主党(アル・パールティー)ムスタファー派, シリア・クルド左派党イブラーヒーム派, シリア・クルド進歩民主党ダーウド派, シリア・クルド国民民主党 [青山 2006b, 20-21]。2005年5月に新規加盟したシリア・クルド・アーザーディー党は, 2006年3月に加盟を凍結した(第Ⅲ節第1項(4)参照)。

2005年の主な活動は以下のとおり。

3月3日, シリア・クルド民主同盟, シリア・クルド人民連合党, クルド・シリア民主党とともにカーミシュリー事件発生1周年にあたる3月12日に犠牲者を悼んで5分間の黙祷を行なうよう呼びかける(第Ⅲ節第1項(2)参照)。

6月5日, シリア・クルド・イエキーティー党とシリア・クルド・アーザーディー党がカーミシュリー市で実施したデモ(第Ⅲ節第1項(4)参照)への参加をシリア・クルド民主同盟とともに辞退し, ハズナウィー師失踪殺害事件を調査するための国際委員会の設置を呼びかける [al-Taḥāluf al-Dīmuqrāṭī al-Kurdī fī Sūriyā and al-Jabha al-Dīmuqrāṭīya al-Kurdiya fī Sūriyā 2005a]^{注36)}。

7月1日, シリア・クルド民主同盟とともに行動委員会(Lajna al-'Amal al-Mushtarak)を設置。他の政治勢力との連携のもと, 民主主義, 戒厳

令解除, 政党法制定, 政治犯釈放, 生活水準向上, クルド問題の民主的解決をめざす [al-Taḥāluf al-Dīmuqrāṭī al-Kurdī fī Sūriyā and al-Jabha al-Dīmuqrāṭīya al-Kurdiya fī Sūriyā 2005b]

9月8日, シリア・クルド・アーザーディー党とシリア・クルド・イエキーティー党のイニシアチブのもと, 「例外的統計」43周年に合わせたデモが計画された基本的自由・人権擁護国民調整委員会の会合への出席をシリア・クルド民主同盟とともにボイコット(第Ⅲ節第1項(4)参照)。

9月18日, シリア・クルド民主同盟と共同声明を出し, ハサカ市で「例外的統計」に合わせたデモの実施を呼びかける [al-Jabha al-Dīmuqrāṭīya al-Kurdiya fī Sūriyā and al-Taḥāluf al-Dīmuqrāṭī al-Kurdī fī Sūriyā al-Hay'a al-'Āmma 2005]

10月16日, 「ダマスカス国民民主変革宣言」の作成・発表を主導(第Ⅱ節第6項参照)。

(2) シリア・クルド民主同盟

アラビア語名：

al-Taḥāluf al-Dīmuqrāṭī al-Kurdī fī Sūriyā

クルド語名：

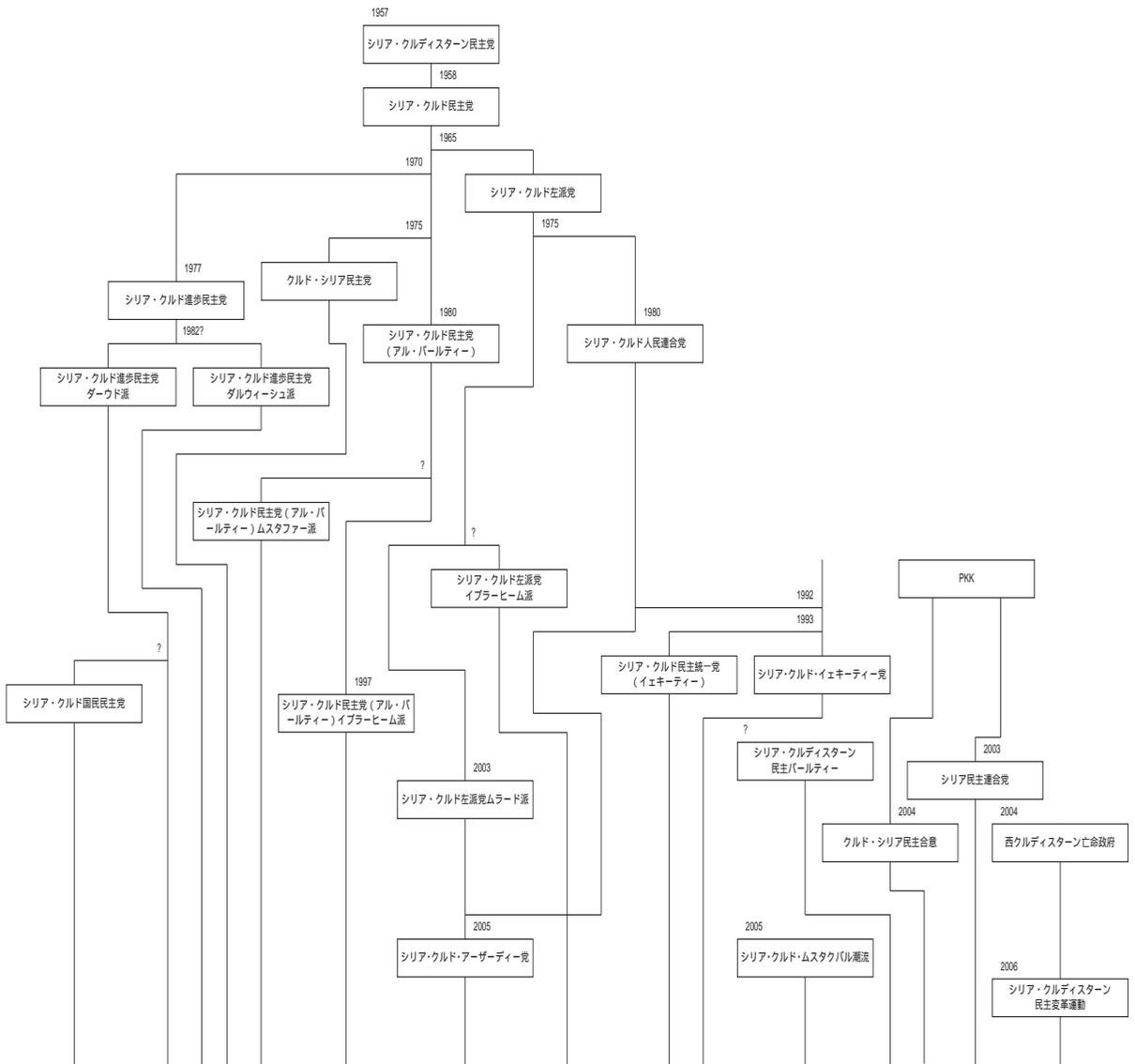
Hevbendîya Demokrat a Kurd li Sūriyê

1992年に発足した政治同盟。2006年3月現在の加盟政党は, シリア・クルド民主党(アル・パールティー)イブラーヒーム派, シリア・クルド進歩民主党ダルウィーシュ派, シリア・クルド民主統一党(イエキーティー) [青山 2006b, 21-23]

3月3日, シリア・クルド民主戦線, シリア・クルド人民連合党, クルド・シリア民主党とともにカーミシュリー事件発生1周年にあたる3月12日に犠牲者を悼んで5分間の黙祷を行なうよう呼びかける(第Ⅲ節第1項(2)参照)。

6月5日, シリア・クルド・イエキーティー党と

図 クルド民族主義政党・政治組織の分裂の経緯(2006年3月現在)



(出所) 筆者作成。

シリア・クルド・アーザーディー党がカーミシュリー市で実施したデモへの参加をシリア・クルド民主戦線とともに辞退し、ハズナウィー師失踪殺害事件を調査するための国際委員会の設置を呼びかける(第Ⅲ節第1項(4),第2項(1)参照)。

7月1日,シリア・クルド民主戦線とともに行動委員会を設置(第Ⅲ節第2項(1)参照)。

9月8日,シリア・クルド・アーザーディー党とシリア・クルド・イエキーティー党のイニシアチブのもと、「例外的統計」43周年に合わせた

デモが計画された基本的自由・人権擁護国民調整委員会の会合への出席をシリア・クルド民主戦線とともにボイコット(第Ⅲ節第1項⁽⁴⁾,第2項⁽¹⁾参照)。

9月18日,シリア・クルド民主戦線と共同声明を出し,「例外的統計」に合わせたデモのハサカ市での実施を呼びかける(第Ⅲ節第2項⁽¹⁾参照)。

10月初め,「ダマスカス国民民主変革宣言」発表に先立って,シリア国民民主連合,シリア・クルド民主党(アル・パールティー)ムスタファー派,シリア・クルド国民民主党,シリア・クルド進歩民主党ダーウド派と共同声明を出し,国民的,民主的な改革および体制の構築に合意したことを発表(注28参照)。

10月16日,「ダマスカス国民民主変革宣言」の作成・発表を主導(第Ⅱ節第6項参照)。

結びにかえて

第Ⅲ節ではクルド民主主義政党・政治組織,政治同盟の活動状況を個別に解説したが,それらを2005年の政情変化や反政府運動全体の動向と連関させてみると,以下のような特徴,ないしは傾向を見出すことができる。

第1の特徴は,ハリリー元首相暗殺によってアサド政権が外交的窮地に陥るなかで,活動を活性化させ,国内外の反政府勢力との共闘を本格的に進めていった点である。第Ⅱ節でも述べたとおり,シリアの反政府勢力は,イデオロギー・思想潮流や活動拠点の違いを越えて,一致団結して改革をめざすようになったが,クルド民族主義政党・政治組織は常にこうした動きの一翼を担った。

第2の特徴は,他のイデオロギー・思想潮流に

属す反政府勢力との共闘がクルド民族主義勢力内の路線対立をしいに激化させていった点である。この路線対立は,「民主化」と民族主義をいかに関係づけるかをめぐる見解の相違に端を発しており,彼らを民族至上主義派と民主化重視派とでも呼ぶべき二つの陣営へと分裂させた。

民族至上主義派は,他の反政府勢力との共闘を是認しつつも,クルド民族主義に依拠してクルド人の民族的生存権や政治的・文化的自治の実現を強調し,「クルド問題」の解決を「民主化」の前提条件と位置づける陣営である。同陣営は,シリア・クルド・イエキーティー党,シリア・クルド・アーザーディー党(その前身のシリア・クルド人民連合党とシリア・クルド左派党ムラード派),シリア・クルド・ムスタクバル潮流,シリア民主連合党,クルド・シリア民主党,西クルディスタン亡命政府からなる。一方,民主化重視派は,シリアの反政府勢力にとって共通の目標である権威主義体制の変革と「民主化」を最優先させ,「民主化」プロセスのなかで「クルド問題」を解決しようとする陣営である。同陣営は,シリア・クルド民主同盟(シリア・クルド民主統一党(イエキーティー),シリア・クルド民主党(アル・パールティー)イブラーヒーム派,シリア・クルド進歩民主党ダルウィーシュ派),シリア・クルド民主戦線(シリア・クルド民主党(アル・パールティー)ムスタファー派,シリア・クルド左派党イブラーヒーム派,シリア・クルド進歩民主党ダーウド派,シリア・クルド国民民主党),クルド・シリア民主合意からなる。

民族至上主義派と民主化重視派の対立は,クルド民族主義勢力内の多元性や民主性の表れと好意的にとらえることもできる。だが,この対立が,シリアの反政府勢力全体の分裂をもたらしていることはまぎれもない事実であり,クル

ド民族主義勢力がシリアにおける改革運動を担うには、こうした状況を克服することが急務である(注37)。

(注1) なお青山(2006a)では、イラク戦争後の政治情勢を四つの局面に分けて概説したが、その第1局面(イラク戦争勃発から国連安保理決議第1559号採択まで)の解説は本稿では割愛した。

(注2) 国連安保理決議第1559号全文については、<http://daccessdds.un.org/doc/UNDOC/GEN/N04/498/92/PDF/N0449892.pdf?OpenElement>(2004年9月閲覧)を参照。

(注3) 2004年9月下旬、アサド政権はレバノン山地県からシリア軍約3000人を撤退させ、また同年12月半ばにはバイルート国際空港周辺などの治安組織施設を撤収した[Reuters 2004; Taqī al-Dīn 2004]

(注4) シリア軍の完全撤退は2005年5月下旬に提出された国連の検証報告書(全文は[The Daily Star 2005]に掲載)で確認された。だが、シリアの治安組織の撤退状況については検証困難と結論づけられ、そのことがシリアの内政干渉に対する米仏などのその後の批判の根拠となった。

(注5) 国連安保理決議第1595号全文については、<http://daccessdds.un.org/doc/UNDOC/GEN/N05/299/98/PDF/N0529998.pdf?OpenElement>(2005年4月閲覧)を参照。

(注6) UNIIIC 第1回報告書全文については、<http://www.un.org/news/dh/docs/mehlisreport/>(2005年10月閲覧)を参照。

(注7) 国連安保理決議第1636号全文については、<http://daccessdds.un.org/doc/UNDOC/GEN/N05/579/61/PDF/N0557961.pdf?OpenElement>(2005年10月閲覧)を参照。

(注8) UNIIICは、ルストゥム・ガゼーラ(Rustum Ghazāla)准将(前駐留シリア軍治安偵察機構課長)、ジャーミウ・ジャーミウ(Jāmi' Jāmi')准将(ガゼーラ准将の副官)、アブドゥルカリーム・アッバース('Abd al-Karīm 'Abbās)准将(軍事情報局パレスチナ課長)、ザーヒル・ユースフ(Zāhir Yūsuf)准将(軍事情報局で通信・インターネット部門を指揮)、サミーフ・カシ

ュマイー(Samīḥ Qashmā'i)退役大佐をウィーンで事情聴取しただけであった。

(注9) 2004年10月1日、進歩社会主義党(al-Ḥizb al-Taqaḍdumī al-Ishtirākī)のマルワーン・ハマダ(Marwān Ḥamāda)議員が暗殺未遂に遭った。この事件は、ラッフード大統領任期延長後初の「テロ」であり、以降2005年12月12日のジュブラーン・トゥワイニー(Jubrān Tuwaynī)議員(『アン＝ナハール』[al-Nahār]編集長)暗殺事件を含めて15件の「暗殺(未遂)テロ」や「爆弾テロ」が発生した[al-Ḥayāt 2005c]

(注10) 国連安保理決議第1644号全文については、<http://daccessdds.un.org/doc/UNDOC/GEN/N05/647/20/PDF/N0564720.pdf?OpenElement>(2005年12月閲覧)を参照。

(注11) ハリーリー元首相の「盟友」であったハッダーム副大統領は、元首相の葬儀にシリアの要人として唯一出席した後、政策決定の場から完全に排除された。その後、バース党第10回シリア地域大会(2005年6月6～9日)の初日に、すべての公職(副大統領、進歩国民戦線中央指導部メンバー、バース党シリア地域指導部メンバー)からの引退を宣言し、パリに移住した[Akhbār al-Sharq 2005a; 2005f; 2005j; Ḥamīdi 2005b; SANA 2005b]

(注12) シャルア外務大臣は2006年2月、副大統領(外務担当)に就任し、後任の外務大臣にはワリード・ムアッリム(Walid al-Mu'allim)外務副大臣が就任した。

(注13) 「未来のシリアのための政治計画」の詳細な内容については、末近(2005, 309-312)を参照。

(注14) 「クルド問題」とは一般的に、トルコ、イラク、イランといった国々におけるクルド民族主義運動の展開と、それによってもたらされる差別・抑圧を示す。だが本稿で筆者が「クルド問題」という場合、それは単にクルド人への恣意的差別を意味するのではなく、「合法的」な制度や法律を通じて「制度化」された差別を指す。なお、「クルド問題」の詳細については、青山(2005c)を参照。

(注15) この声明でシリア・ムスリム同胞団はクルド人への人種差別的撤廃や「クルド問題」の解決を主唱した。

(注16) なお、基本的自由・人権擁護国民調整委員会加盟組織は、2003年と2004年にダマスカス市内の首相府前で行われた3度にわたるデモ(2003年10月5日、

同年12月10日, 2004年12月9日)を通じて共闘態勢を整えた[青山 2005b, 79, 80; al-Tajammu' al-Waṭānī al-Dīmuqrāṭī fī Sūriyā, al-Taḥāluf al-Dīmuqrāṭī al-Kurdi fī Sūriyā, al-Jabha al-Dīmuqrāṭiyya al-Kurdiyya fī Sūriyā et al. 2004a; 2004b]

(注17) 2004年3月に発生したシリア現代史上初のクルド人による民衆暴動。3月12日にカーミシュリー市で予定されていた地元サッカー・チームとデイル・ゾール県所属のチームとの対戦直前に起きた, 両チーム・サポーター(地元のクルド系住民とデイル・ゾール県から訪れたアラブ系住民)のスタジアム内での衝突に端を発したこの暴動は, まもなく市全土に拡大, 暴徒化した民衆に警察・治安部隊が無差別発砲を行うにいたり, 事態は騒乱の様相を呈した。また事件発生を受け, ハサカ市, アフリーン市, アイン・アル=アラブ市, ダマスカス市, ドゥンマル市(ワーディー・アル=マシャリーウ), アレッポ市などで, クルド系住民が連日のようにゼネストやデモを組織し, カーミシュリー市での暴動の真相究明を政府に要求するとともに, クルド人に対する差別の撤廃を訴えた。アサド政権はこれら一連の暴動に対して, 警察・治安部隊を動員し, 同月18日までに弾圧したが, その間, 30人以上が死亡, 約130人が負傷し, 約1700人の市民が逮捕された。また約600人がイラクへ避難し, 難民生活を強いられた[青山 2005c, 42; *Akhbār al-Sharq* 2005k]

(注18) 1980年7月8日に制定・施行された法律で, シリア・ムスリム同胞団に所属するすべての者の極刑を定めている。1980年法律第49号の詳細な内容については, 末近(2005, 266)を参照。

(注19) 文化会議とは, 市民社会の確立をめざす運動体, ないしは市民社会の構成機関であり, 主催者の自宅で定期的に会合を開き, 有識者を招聘し, 政治, 経済, 社会, 宗教といった問題に関する講演を行なわせ, その内容について出席者の間で議論を交わすことを目的としている[青山 2005a, 38-39]

(注20) *Akhbār al-Sharq* (2005b)によると14の組織が, 島崎(2005, 10)によると15の組織が, *Akhbār al-Sharq* (2005c)によると17の組織が参加した。

(注21) 国内の有識者が中心となって2000年末に開始した改革運動の通称で, 文化会議の会合を通じて, 市民社会の設立などを議論し, アサド政権に改革を迫った。2001年初めに最高潮に達したこの運動は, 同年2月に

文化会議の会合が閉鎖に追い込まれた後, 8月から9月にかけての指導者・活動家10人が逮捕され, 2002年夏までにその全員が有罪判決を受けたことで頓挫した[青山 2005a, 37-56]

(注22) アターシー代表, アブドゥッラー氏, フサイン・アウダート(Husayn al-'Awdāt)氏, ユースフ・ジャフマーニー(Yūsuf al-Jahmānī)氏, ナーヒド・バダウィーヤ(Nāhid Badawīya)氏, アブドゥンナーシル・カフルース('Abd al-Nāṣir Kaḥlūs)氏, ハーズィム・ナハール(Hāzim al-Nahār)氏, ジハード・マスティー(Jihād Masūṭī)氏, ムハンマド・マフフド(Muḥammad Maḥfūd)氏[*al-Munazzama al-'Arabīya li-Ḥuqūq al-Insān fī Sūriyā* Majlis al-Idāra 2005c]

(注23) 事件の背景には, 2005年2月半ばのハズナウィー・バヤーヌーニー会談で, シリア・ムスリム同胞団とクルド民族主義勢力の接近が促されることへの治安当局の警戒感があつたと考えられた[*Akhbār al-Sharq* 2005c; Amnesty International 2005; al-Bayānūnī 2005; *Ḥizb al-Waḥda al-Dīmuqrāṭī al-Kurdi fī Sūriyā* (Yakīti) 2005]

(注24) 2005年5月25日, 26日, 30日, ジャマール・アターシー民主的対話会議メンバーらの逮捕とハズナウィー師失踪殺害事件に抗議するデモがダマスカス市内で実施されたが, このうち25日のデモ以外は当局によって弾圧された[*Akhbār al-Sharq* 2005d; *Ḥizb Yakīti al-Kurdi fī Sūriyā* al-Lajna al-Siyāsīya 2005a; Lajna al-Tansiq al-Waṭānī li-l-Difā' 'an al-Ḥurriyāt al-Asāsīya wa Ḥuqūq al-Insān 2005b]

(注25) バアス党が指導する翼賛的政治同盟。2006年現在の加盟組織は, バアス党, アラブ社会主義者運動アフマド・ムハンマド・アフマド(Aḥmad Muḥammad al-Aḥmad)派, 国民誓約党(*Ḥizb al-'Ahd al-Waṭānī*), 統一社会主義者党(*Ḥizb al-Waḥdawīyīn al-Ishtirākīyīn*), 統一社会民主主義党(*al-Ḥizb al-Waḥdawī al-Ishtirākī al-Dīmuqrāṭī*), アラブ社会主義連合党(*Ḥizb al-Ittiḥād al-Ishtirākī al-'Arabī*), アラブ民主連合党(*Ḥizb al-Ittiḥād al-'Arabī al-Dīmuqrāṭī*), シリア共産党(*al-Ḥizb al-Shuyū'ī al-Sūrī*)ウィサール・ファルハ(Wiṣāl Farḥa)派, 同ユースフ・ファイサル(Yūsuf Fayṣal)派, シリア民族社会党イサーム・マハーイリー('Iṣām al-Maḥāyirī)派。

(注26) 1988年に結成された組織。党首(最高調整委員会 [Lajna al-Tansiq al-'Ulyā])総合調整役[*al-Munassiq*

al-‘Āmm)はマルワーン・ハンムード(Marwān Ḥammūd)が務める。アブドゥルアズィーム弁護士がスポークスマンを務めるシリア国民民主連合とは別組織。また、ハーフィズ・アサド(Hāfiz al-Asad)前政権のもとで1998年に結成されたクルド人組織、シリア国民民主連合(al-Tajammu’ al-Waṭanī al-Dīmuqrāṭī al-Sūrī, ムハンマド・マルワーン・ザルキー〔Muḥammad Marwān al-Zarkī〕議長)とも別組織と思われる[Ahrār Sūrīya 2006]

(注27) なおUNIICの第1回報告書提出に合わせて、10月半ばには民主的対話のための国民会合・パリ2が予定されたが、開催されなかった[al-Tajammu’ min Ajl Sūrīya 2005]

(注28) 「ダマスカス国民民主変革宣言」の発表に先立って、10月初め、シリア国民民主連合、シリア・クルド民主同盟、シリア・クルド民主党(アル・パルティー)ムスタファー派、シリア・クルド国民民主党、シリア・クルド進歩民主党ダウド派が共同声明を出し、国民的、民主的な改革および体制の構築に合意したことを発表した[al-Tajammu’ al-Waṭanī al-Dīmuqrāṭī fi Sūrīya, al-Taḥāluf al-Dīmuqrāṭī al-Kurdī fi Sūrīyā, al-Ḥizb al-Dīmuqrāṭī al-Kurdī fi Sūrīyā(al-Bārti) et al. 2005]

(注29) これに対して、ダマスカス宣言暫定委員会は公然活動を控え、声明を通じてアサド政権を批判し続けた。例えば、11月半ば、アサド大統領のダマスカス大学での演説を批判し、UNIICへの協力とレバノンに対する敵対的な政策の放棄などを求めた。また、世界人権の日に合わせて、国民に自由、民主主義、人権のための闘争を行なうよう呼びかけた[al-Lajna al-Mu’aqqata li-Flān Dimashq 2005b ; 2005c]

(注30) また、11月上旬、シリア治安当局は、欧米滞在中に欧米の高官と会見したとの容疑で、「ダマスカスの春」の指導者の1人で国民民主自由主義者連合の創設者でもあるカマル・ルブワニー(Kamāl al-Lubwānī)氏を逮捕した。その一方で、アサド大統領は反政府勢力に対する優位を誇示すべく、11月2日、政治犯190人を対象とした恩赦を実施するとの大統領令を発した。この恩赦には、5月に逮捕されたジャマル・アターシー-民主的対話会議のアブドゥッラー氏、アラブ人権機構のラアドゥーン会長らが含まれていた。また、政権は官制デモを通じて動員力を誇示した。例えば、UNIICの第1回報告書提出を受け、

10月24日、ダマスカス市やアレッポ市で報告書の「不正に満ちた嫌疑」に抗議するための数千人規模のデモを組織した。また、国連安保理決議第1636号採択直後の11月初めから12月下旬にかけて、ダマスカスの米大使館前で、外圧に反対する座り込みデモを設営させた[Akhbār al-Sharq 2005o ; al-Dayrī 2005b ; Ḥamīdī 2005d ; al-Lajna al-Sūrīya li-Ḥuqūq al-Insān 2005b ; SANA 2005c ; al-Thawra 2005]

(注31) なお本節では、国籍剥奪者権利擁護委員会、クルド・アラブ友好協会、シリア・クルド人権委員会、シリア・クルド人権侵害監視団、シリア人権・基本的自由擁護クルド機構、殉教者マアシューク・ハズナウィー師クルド文化会議、ジェラード・ベドゥルハーン文化会議といった文化会議・人権擁護団体についての解説は割愛した。

(注32) 1962年8月23日に制定された1962年法律第93号に基づき、10月5日にハサカ県で実施された人口統計の再調査。この調査によって、多くのクルド人が外国人と認定され、国籍を剥奪された。詳細については、青山(2005c, 52-54)を参照。

(注33) またシリア・クルド・イエキーティー党も、5月5日、合併のための対話に積極的に応じるとの立場を表明した[Ḥizb Yakīti al-Kurdī fi Sūrīyā al-Lajna al-Markaziya 2005b]

(注34) またこれ以外にも、自由民主主義者党、リベラル民主世俗同盟、シャーム民主研究センターが会合に出席した[Ḥizb Yakīti al-Kurdī fi Sūrīyā and Ḥizb Āzādī al-Kurdī fi Sūrīyā 2005]

(注35) ムハンマド政治委員会メンバーはその後9月25日、国家最高治安裁判所で禁固5年の有罪判決を受けた[Ḥizb al-Waḥda al-Dīmuqrāṭī al-Kurdī fi Sūrīya (Yakīti) al-Lajna al-Siyāsiya 2005b]

(注36) また、シリア・クルド進歩民主党ダルウィーシュ派のダルウィーシュ書記長自宅に、シリア・クルド民主同盟、シリア・クルド民主戦線、そしてアラブ人部族の各代表が集い、治安当局の弾圧を批判しつつも、暴動に反対の意思を示し、シリア・クルド・イエキーティー党とシリア・クルド・アーザーディー党の行動を批判した。これに対して、6月7日、シリア・クルド・イエキーティー党のファード・アリークー(Fu’ād ‘Alīkū)政治委員会(al-Lajna al-Siyāsiya)メンバーは、「我々と街頭で力で対抗し、我々を政治的に孤立させた」と述べ、暴動の鎮圧をめざしたシリア・クルド

民主同盟, シリア・クルド民主戦線を非難した['Alikū 2005; al-Jabha al-Dimuqrāṭiyya al-Kurdiyya fi Sūriyā and al-Taḥāluf al-Dimuqrāṭi al-Kurdi fi Sūriyā 2005] (注37) なお, シリアのクルド民族主義勢力内の対立については, 2006年に公刊予定の間寧編『西・中央アジア諸国における亀裂構造と政治体制』(仮題)に集録される拙稿「シリア 権威主義体制に対するクルド民族主義勢力の挑戦」(青山 未刊行)で詳しく論じたので, 別途参照されたい。

【文献リスト】

日本語文献

- 青山弘之 2003. 「シリアにおける政党・政治組織」 パッサール・アル=アサド政権発足以降を中心に」酒井啓子・青山弘之編「中東諸国における政権権力基盤と市民社会(研究会中間成果報告)」日本貿易振興機構アジア経済研究所 63-116.
- 2005a. 「権威主義・独裁維持のための「多元主義」パッサール・アサド政権下のシリア」酒井啓子・青山弘之編『中東・中央アジア諸国における権力構造 したたかな国家・翻弄される社会』(アジア経済研究所叢書1)岩波書店 25-70.
- 2005b. 「シリアにおけるクルド民族主義政党・政治組織(1)」『現代の中東』第39号(7月)58-84.
- 2005c. 「シリアにおけるクルド問題 差別・抑圧の“制度化” (研究ノート)」『アジア経済』第46巻第8号(8月)42-70.
- 2005d. 「シリア: 民主性誇示か, 権威主義維持か」バアス党第10回シリア地域大会に見るアサド政権」『海外事情』第53巻第11号(11月)46-56.
- 2006a. 「アサド政権を襲うシリア・バッシング 米仏の政治的圧力と内政の困難」『世界』第747号(1月)300-307.
- 2006b. 「シリアにおけるクルド民族主義政党・政治組織(2)」『現代の中東』第38号(1月)20-31.
- 未刊行. 「シリア 権威主義体制に対するクルド民族主義勢力の挑戦」間寧編『西・中央アジア諸国における亀裂構造と政治体制』(仮題)
- 島崎浩 2005. 「岐路に立つ反政府運動(特集 シリア民主化の行方)」『季刊アラブ』第114号(秋)9-11.
- 未近浩太 2005. 『現代シリアの国家変容とイスラーム』ナ

カニシヤ出版.

外国語文献

- Ahrār Sūriya(<http://www.ahrarsyria.com/>)2006. “Risāla min al-Sayyid Marwān Ḥammūd al-Tajammu' al-Waṭani al-Dīmuqrāṭi TWD ḥawla al-Liqā' al-Awwal al-Quwā al-Waṭaniyya al-Sūriyya fi Shamāl Amrikā,” January 4.
- Akhbār al-Sharq(<http://www.thisissyria.net/>)2005a. “‘Abd al-Ḥalīm Khaddām Ghā'ib ‘an al-I'lām.. wa Anbā' ‘an Farq Quyūd ‘alay-hi,” March 5.
- 2005b. “Hal Tushim Awwal Mushāraka li-l-Ikhwān fi Jasla Ḥiwār dākhila Sūriyya fi Tawḥīd Quwā al-Iṣlāḥ fi al-Bilād?” May 10.
- 2005c. “‘Ikhtitāf’ al-Nashiṭ al-Sūrī ‘al-Mutabarri’ bi-lqā’ Awwal Kamila bi-Ism al-Ikhwān dākhila Sūriyya mundhu Rub’ Qarn,” May 16.
- 2005d. “Qam’ al-Muhtajjin ‘alā al-I’tiqālāt al-Akhira.. wa Hirawāt ‘al-Amn’ wa al-Hātifin bi-Ism Bashshār al-Asad lā Tuwaffir al-Nisā’ wa lā al-Rijāl,” May 26.
- 2005e. “al-Qāmishli “Thukna ‘Askariyya’ ba’da Taslim al-Shaykh Muḥammad Ma’shūq al-Khaznawī ilā Dhawī-hi Maqtūlan.. wa Ta’kīd Liqā’-hi bi-al-Bayānūni fi Brüksil,” June 1.
- 2005f. “Khaddām Awwal ‘Anāsir ‘al-Ḥaras al-Qadīm’ al-Rāghibin bi-al-Taqā’ud,” June 7.
- 2005g. “Ākhir Rumūz Rabī Dimashq fi Dhimma al-Tārīkh : Ighlāq Muntadā Jamāl al-Atāsī li-l-Ḥiwār al-Dīmuqrāṭi fi Sūriyya,” June 29.
- 2005h. “Takhawwuf Amnī Sūrī min Iḥtimāl Ḥudūth ‘Ittiṣālāt’ Kurdiya Ikhwāniyya,” July 1.
- 2005i. “Qiyādiyāni fi “al-Wifaq al-Dīmuqrāṭi al-Kurdi al-Sūrī” Yata’arraḍāni li-Muḥāwala Ightiyāl fi Ḥalab,” July 11.
- 2005j. “Iqāla Khaddām min al-Lajna al-Markaziyya li-l-Jabha al-Waṭaniyya al-Taqaaddumiyya,” July 12.
- 2005k. “Mi’āt al-Farrīn mundhu Aḥdāth al-Qāmishli Ya’ishūn Zurūfan Ṣa’ba fi Manāṭiq Akrad al-‘Irāq.. I’tiqālāt wa Tahdidāt bi-Taslim-him li-l-Sulṭa al-Sūriyya!” August 11.
- 2005l. “Aḥdāth Shaghb fi ‘Ayn al-‘Arab wa l’itiqāl

- al-'Asharāt min al-Akrād," August 15.
- 2005m. "al-Aḥzāb al-Sūriya al-Ra'isiya lan Tushārik fi Mu'tamar Bāris al-Muqarrar 'Aqd-hu fi Aylūl," August 25.
- 2005n. "Ḥizb Kurdi Sūrī Yarfuḍ Ḥuḍūr Mu'tamar Bāris li-anna al-Ḥaraka al-Kurdiya "lam Taṭraḥ ba'du" Isqāt al-Sulṭa," August 28.
- 2005o. "al-Ḥāla al-Thālitha fi Ḥalab dūna Tadakhkhul Malmūs min al-Sulṭāt : Muḥāwala Igḥtiyāl Nāshit fi Ḥizb al-Wifaq al-Kurdi," September 11.
- 2005p. "Lajna al-Tansiq al-Waṭani Tunāqish Anshita-hā al-Qādima.. wa Tamthil Kurdi Ḍa'if raghma Munāqasha al-Iḥtijāj fi Dhikrā "al-Iḥṣā' al-istithnā'i!" September 12.
- 2005q. "Mawāqif al-Rāfiḍin li-"I'lān Dimashq" Tatarāwah bayna 'Adam Talbiya al-Maṭālib wa al-Tashkik bi-Waṭaniya al-Muwaqqi'in!" October 18.
- 2005r. "'al-Shāhid al-Muqanna'" Yazḥar fi Mu'tamar Ṣuḥufi fi Dimashq li-Yataḥaddath 'an Tajnid-hi min Qibal Sa'd al-Ḥariri.. wa Dimashq Tarā anna Taqrir Milis qad "Inhār," November 28.
2006. "Ba'da Ḥadith Khaddām : al-Asad wa al-Shar' Maṭlūbāni li-Taḥqiq fi Jarīma Igḥtiyāl al-Ḥariri," January 2.
- Alarabiya.net 2005. "al-Nuwwāb Hājamū "al-'Arabiya" wa Waṣafū-hā bi-al-Yahūdiya wa al-'Ibriya : Majlis al-Sha'b al-Sūrī Yuṭālib bi-Muḥākama Khaddām bi-Tuhma "al-Khiyāna al-'Uzmā," December 31.
- 'Alīkū, Fu'ād 2005. "al-Taḥāluf wa al-Jabha Yuhāribūn-nā," Amude.net, June 7.
- Amnesty International 2005. "Syria : Leading Islamic Cleric "Tortured to Death"," June 1.
- Amude.net (<http://www.amude.net/>)2005. "Lijān Ihyā' al-Mujtama' al-Madani : Lan Nushārik fi Mu'tamar Bāris.. wa al-Jihāt allati Tunazzim-hu lā Na'rif-hā," September 12.
- 'Antar, Jān 2005. "Bayān min al-Ḥaraka al-Dimuqrāṭiya al-Siryāniya ḥawla I'lān Dimashq," October 20.
- Bakkūr, Muḥammad Aḥmad 2005. "Bayān min al-Lajna al-Sūriya li-l-'Amal al-Dimuqrāṭi ḥawla 'Adam al-Mushāraka fi Mu'tamar Bāris," September 5.
- Bārti Dimuqrāṭi Kurdistan Sūriya 2006. "Ḥawla Da'wa al-Ra'is al-Sūrī li-Ru'asā' 'Ashā'ir ka-Mumaththilīn 'an al-Sha'b al-Kurdi fi Sūriya," January 29.
- Bārti Dimuqrāṭi Kurdistan Sūriya al-Lajna al-Qiyādiya 2005. "Mawqif Bārti Dimuqrāṭi Kurdistan Sūriya min "I'lān Dimashq li-l-Taghyir"," October 18.
- al-Bayānūni, 'Alī Ṣadr al-Dīn 2005. "Taṣriḥ min Jamā'a al-Ikhwān al-Muslimīn fi Sūriya ḥawla Jarīma Igḥtiyāl al-Shaykh Muḥammad Ma'shūq al-Khaznawī," June 1.
- The Daily Star* 2005. "UN Verification Team Finds No Syrian Military or Intelligence Presence in Lebanese Territory : Sole Exception Is a Battalion Deployed at Deir al-Ashayr, Whose Border Status Is Unclear," May 25.
- Dāwud 'Aziz 2005. "Kalima al-Ḥizb al-Dimuqrāṭi al-Taqaddumī al-Kurdi wa al-Jabha al-Dimuqrāṭiya al-Kurdiya fi Muntadā al-Atāsī," a paper read at Muntadā Jamāl al-Atāsī li-l-Ḥiwār al-Dimuqrāṭi on May 7.
- al-Dayrī, Ḥusām 2005a. "Bayān min Tajammu' al-Aḥrār al-Waṭani al-Dimuqrāṭi ḥawla I'lān Dimashq," October 16.
- 2005b. "Bayān min Tajammu' al-Aḥrār al-Waṭani al-Dimuqrāṭi ḥawla I'tiqāl al-Duktūr Kamāl al-Lubwāni," November 8.
- El Rafei, Raed 2006. "Brammertz Sets Sight on Syria Interviews." *The Daily Star*, January 31.
- al-Ghaḍbān, Najīb 2005. "Bayān min al-Majlis al-Waṭani al-Sūrī ḥawla Mu'tamar al-Mu'araḍa fi Bāris," August.
- Ḥamīdi, Ibrāhīm 2005a. "A'lām "Ḥizb Allāh" wa al-'Irāq wa Sūriya ma'a Ṣuwar al-Ra'is al-Sūrī wa 'Abd al-Nāṣir wa Naṣr Allāh ... Shawāri' Dimashq Tashhad Akbar Masīra mindhu Sanawāt Ta'yīdan li-l-Asad," *al-Ḥayāt*, October 3.
- 2005b. "al-Shihābi Nafā al-Ta'āwun ma'a Amīrikā wa Khaddām Ya'ūd ilā Sūriya Qarīban," *al-Ḥayāt*, October 12.
- 2005c. "'al-Tajammu' al-Dimuqrāṭi" Yu'arīḍ "I'lān Dimashq li-l-Taghyir" ba'da Ta'yīd "al-Ikhwān al-Muslimīn" wa "Ḥizb al-Iṣlāḥ," *al-Ḥayāt*, October 18.
- 2005d. "Rabṭ al-Ta'āwun al-Kāmil ma'a al-Qarār

- 1636 bi-al-Siyāda ... wa Talwih bi-al-Iṣlāh wa al-Taghyir al-Ḥukūmī ... al-Qiyāda al-Sūriya Tarudd Sha'bīyan 'alā al-Ḍughūt : al-Bilād Kull-hā Mustahdifa," *al-Hayāt*, November 2.
- Ḥammūd, Marwān 2005. "al-Tajammu' al-Waṭanī al-Dīmuqrāṭī al-Sūrī TWD wa I'lān Dimashq li-l-Taghyir al-Waṭanī al-Dīmuqrāṭī," October.
- Haraka al-Taghyir al-Dīmuqrāṭī al-Kurdistānī fī Sūriya 2006. "Bayān 'an al-Künghrās al-Istithnā'i li-Ḥaraka al-Taghyir al-Dīmuqrāṭī al-Kurdistānī fī Sūriya," April 6.
- al-Hayāt* 2005a. "Sūriya : Iṭlāq A'dā' "Muntadā al-Atāsī" wa Tawqīf Nāshit Ḥuqūq fī Tartūs," May 31.
- 2005b. "Sūriya : Ijtimā' li-"Taṭwīq" li-Tawattur ba'da Suqūt Qatīlayni wa 3 Jarḥā fī al-Qāmishli," June 7.
- 2005c. "al-Infjār al-Thāliṭh 'Ashara min Silsila al-I'tidā'at allatī Istahdafat Lubnān mundhu Igthiyāl Rafiq al-Ḥariri," December 12.
- Ḥizb Āzādī al-Kurdī fī Sūriyā 2005a. "Taṣriḥ," August 11.
- 2005b. "Tawḍīḥ," October 18.
- Ḥizb Āzādī al-Kurdī fī Sūriyā al-Lajna al-Markaziya 2005a. "Bayān al-Wahda al-Indimājiya," May 21.
- 2005b. "al-Nizām al-Dākhlī (Maṭrūḥ li-l-Munāqasha)" October.
2006. "Bayān Tawḍīḥi ḥawla Asbāb Tajmīd 'Adwiya Ḥizb-nā fī al-Jabha al-Dīmuqrāṭīya al-Kurdiya," March.
- Ḥizb Āzādī al-Kurdī fī Sūriyā al-Maktab al-Siyāsī 2005. "Taṣriḥ min Ḥizb Āzādī al-Kurdī fī Sūriyā : Mubādara Kurdiya," November 17 and 24.
- Ḥizb Āzādī al-Kurdī fī Sūriyā and Ḥizb Yakīti al-Kurdī fī Sūriyā 2005a. "Nidā'," June 3.
- 2005b. "Taṣriḥ," June 6.
- al-Ḥizb al-Dīmuqrāṭī al-Kurdī al-Sūrī al-Maktab al-Siyāsī 2005. "Balāgh Ṣādir 'an al-Maktab al-Siyāsī li-l-Ḥizb al-Dīmuqrāṭī al-Kurdī al-Sūrī P.D.K.S.," November 13.
- al-Ḥizb al-Dīmuqrāṭī al-Kurdī al-Sūrī al-Nāṭiq al-Rasmī 2005. "Taṣriḥ min al-Ḥizb al-Dīmuqrāṭī al-Kurdī al-Sūrī ḥawla Ziyāra Wafd-hi li-Ri'āsa Majlis al-Wuzarā'," October 4.
- al-Ḥizb al-Dīmuqrāṭī al-Taqaḍdumī al-Kurdī fī Sūriyā al-Maktab al-Siyāsī 2005. "Taṣriḥ : al-Amn Yamna' al-Dīmuqrāṭī al-Taqaḍdumī min al-Iḥtīfāl bi-Dhikrā Ta'sīs-hi," June 13.
- Ḥizb al-Iṣlāh al-Sūrī al-Maktab al-Siyāsī 2005. "Taṣriḥ," September 11.
- Ḥizb al-Ittiḥād al-Dīmuqrāṭī fī Sūriyā al-Lajna al-Tanfīdhīya 2005. "Bayān ilā al-Ra'y al-'Āmm min Ḥizb al-Ittiḥād al-Dīmuqrāṭī al-Kurdī ḥalwa I'lān Dimashq," October 19.
- Ḥizb al-Ittiḥād al-Dīmuqrāṭī fī Sūriyā al-Maktab al-I'lāmī 2005a. "Bayān min al-Ittiḥād al-Dīmuqrāṭī al-Kurdī fī Sūriyā : I'tiṣām amāma Mabnā Maḥkama al-Amn al-'Ulyā fī al-'Āṣima al-Sūriya Dimashq," December 11.
- 2005b. "Nadwa Yuqīm-hā al-Maktab al-I'lāmī li-Ḥizb al-Ittiḥād al-Dīmuqrāṭī PYD fī Madīna al-Qāmishli," December 11.
- Ḥizb al-Ittiḥād al-Sha'bī al-Kurdī fī Sūriyā al-Lajna al-Markaziya 2005. "al-Rifāq fī al-Lajna al-Markaziya li-l-Ḥizb al-Yasārī al-Kurdī fī Sūriyā : Tu'akkid lakum Muwāfaqa-nā 'alā Da'wa-kum," April 14.
- Ḥizb al-Nahḍa al-Waṭanī al-Dīmuqrāṭī fī Sūriya, Tayyār al-Mustaqbal al-Kurdī fī Sūriyā and Ḥizb al-Ḥadātha wa al-Dīmuqrāṭīya li-Sūriya 2005. "Bayān," September 20.
- Ḥizb Yakīti al-Kurdī fī Sūriyā al-Lajna al-Markaziya 2005a. "Bayān ḥalwa Murūr 'Ām 'alā Majzara Qāmishli wa Iḥyā' Yawm al-Shahīd al-Kurdī," March 5.
- 2005b. "Inna-nā 'alā Istī'dād Tamm min ajl al-Wuṣūl ilā Barnāmaj Siyāsī, wa Qiyāda Ittiḥādiya Mustaraka Tamhīdan li-Injāz al-Wahda al-Indimājiya," May 5.
- 2005c. "Da'wa li-l-Tazāhur min Ajl Inqādh Ḥayāt al-Duktūr Shaykh Muḥammad Ma'shūq al-Khaznawī," May 17.
- 2005d. "Taṣriḥ ḥawla Tazāhura Kurdiya Iḥtijājiya fī Qāmishli," May 21.
- Ḥizb Yakīti al-Kurdī fī Sūriyā al-Lajna al-Qānūniya 2005. "Taṣriḥ : al-Ḥukm bi-al-Sijn Thalāth Sanawāt wa Sanatayni bi-Ḥaqq Khamsata 'Ashara Mu'taqalan Kurdiyan," February 15.

- Ḥizb Yakīti al-Kurdī fi Sūriyā al-Lajna al-Siyāsīya 2005a. “Taṣriḥ ḥawla al-I’tiṣām fi Dimashq li-Muṭālaba bi-Itlāq Sirāḥ al-Mu’taqalīn,” May 30.
- 2005b. “Taṣriḥ : Naḥnu Lasnā Ma’niyīn bi-mā Warad fi I’lān Dimashq,” October 16.
- Ḥizb Yakīti al-Kurdī fi Sūriyā Munazzama Biljīkā 2005. “Taṣriḥ Ṣuḥufī,” March 12.
- Ḥizb Yakīti al-Kurdī fi Sūriyā and Ḥizb Āzādī al-Kurdī fi Sūriyā 2005. “Bayān Tawḍīḥi ḥawla Asbāb ‘Adam Ṣudūr Bayān ‘an Liqā’at Ḥalab wa Taqyīm Khīṭāb al-Ra’īs Bashshār al-Asad,” November 20.
- Ḥizb Yakīti al-Kurdī fi Sūriyā and Ḥizb al-Waḥda al-Dīmuqrāṭī al-Kurdī fi Sūriyā(Yakīti) Munazzama Jāmī’a Ḥalab 2005. “Taṣriḥ ḥawla I’tiṣām fi Jāmī’a Ḥalab li-l-Ihtijāj ‘alā Maqṭal al-Khaznawī,” June 2.
- Ḥizb Yakīti al-Kurdī fi Sūriyā and Tayyār al-Mustaqbal al-Kurdī fi Sūriyā 2005. “Taṣriḥ,” December 10.
- al-Ḥizb al-Yasārī al-Kurdī fi Sūriyā al-Lajna al-Markaziya 2005. “al-Ḥizb al-Yasārī al-Kurdī Yadū Ḥizbayni Kurdiyayni li-Ḥiwār Waḥdawī,” March 29.
- al-Ḥizb al-Yasārī al-Kurdī fi Sūriyā Maktab al-I’lām al-Markazi 2005. “Taṣriḥ : ‘Anāṣir Shabība al-Ba’th wa al-Ittiḥād al-Waṭani li-Ṭalaba Sūriyā Ḥājamū al-I’tiṣām al-Silmī wa Inḥālū bi-al-‘Uṣūy ‘alā al-Mu’taṣimīn,” March 10.
- Ḥizb al-Waḥda al-Dīmuqrāṭī al-Kurdī fi Sūriyā(Yakīti) 2005. “Taṣriḥ : Nuṭālīb al-Sulṭāt al-Mas’ūla, bi-Taḥdīd Maṣīr al-Shaykh Muḥammad al-Khaznawī wa Itlāq Sirāḥ-hi,” May 12.
- Ḥizb al-Waḥda al-Dīmuqrāṭī al-Kurdī fi Sūriyā(Yakīti) al-Lajna al-Siyāsīya 2005a. “Taṣriḥ min Ḥizb al-Waḥda al-Dīmuqrāṭī al-Kurdī fi Sūriyā(Yakīti)” May 15.
- 2005b. “Maḥkama Amn al-Dawla Taḥkum bi-al-Sijn ‘alā ‘Uḍw Qiyādī fi Ḥizb al-Waḥda,” September 25.
- “I’lān Dimashq li-l-Taghyīr al-Waṭani al-Dīmuqrāṭī” 2005. October 16.
- al-Jabha al-Dīmuqrāṭīya al-Kurdiya fi Sūriyā and al-Taḥāluf al-Dīmuqrāṭī al-Kurdī fi Sūriyā 2005. “Ijtimā’ Waṭani fi Manzal ‘Abd al-Ḥamid Darwish li-l-Tabāḥuth fi al-Hamm al-Waṭani al-Mushtarak,” June 6.
- al-Jabha al-Dīmuqrāṭīya al-Kurdiya fi Sūriyā and al-Taḥāluf al-Dīmuqrāṭī al-Kurdī fi Sūriyā al-Hay’a al-‘Āmma 2005. “I’tiṣām Jamāhiri fi Dimashq bi-Munāsaba Dhikrā al-Iḥṣā’ al-Istithnā’i fi al-Ḥasaka,” September 18.
- Jamā’a al-Ikhwān al-Muslimīn fi Sūriya 2001. “Mashrū’ Mithāq Sharaf Waṭani li-l-‘Amal al-Siyāsī,” May 3.
2004. “al-Mashrū’ al-Siyāsī li-Sūriya al-Mustaqbal : Ru’ya Jamā’a al-Ikhwān al-Muslimīn fi Sūriya.”
- 2005a. “al-Nidā’ al-Waṭani li-l-Inqādh,” March 4.
- 2005b. “al-Qaḍīya al-Kurdiya : Ru’ya Jamā’a al-Ikhwān al-Muslimīn fi Sūriya,” May 17.
- al-Jam’īya al-Waṭaniya al-Sūriya fi Kanadā 2005a. “Bayān min al-Jam’īya al-Waṭaniya al-Sūriya fi Kanadā bi-Sha’n I’tidhār-hā ‘an ‘Adam al-Mushāraka fi Mu’tamar Bārīs,” September.
- 2005b. “Bayān min al-Jam’īya al-Waṭaniya al-Sūriya fi Kanadā ḥawla al-Inḍimām ilā I’lān Dimashq,” October 17.
- Khaḍr, ‘Abd al-Ḥamid Ḥāj 2005. “Bayān Ṣuḥufī li-Ḥaraka al-Ḥurriya wa al-Taḍāmun al-Waṭani fi Sūriya li-Da’m I’lān Dimashq,” October.
- Kurdish Media(<http://www.kurdmedia.com/>)2004. “The Herne Declaration of the West Kurdistan Government in Exile,” April 29.
- al-Lajna al-Kurdiya li-Ḥuqūq al-Insān fi Sūriya 2005. “Bayān al-Lajna al-Kurdiya li-Ḥuqūq al-Insān Maf ḥawla Muzāhara al-Qāmiṣhlī li-l-Taḍāmun ma’a al-Shaykh al-Khaznawī,” May 21.
- al-Lajna al-Mu’aqqata li-I’lān Dimashq 2005a. “Bayān ilā al-Sha’b,” November 1.
- 2005b. “Bayān min al-Lajna al-Mu’aqqata li-I’lān Dimashq,” November.
- 2005c. “al-Ittizām bi-‘al-Shar’īya al-Duwalīya li-Ḥuqūq al-Insān” Muhimma Waṭaniya,” December 10.
- al-Lajna al-Sūriya li-Ḥuqūq al-Insān 2005a. “Bayān min al-Lajna al-Sūriya li-Ḥuqūq al-Insān : Man’ In’qād Ijtimā’ al-Lajna al-Mu’awwata li-I’lān Dimashq,” November 14.
- 2005b. “Qā’ima bi-Asmā’ Mu’taqalīn Uṭliq Sirāḥ-hum bi-Tārikh 28/11/2005,” November 28.
- Lajna al-Tansiq al-Waṭani li-l-Difā’ ‘an al-Ḥurriyat al-

- Asāsiya wa Huqūq al-Insān 2005a. "Lajna al-Tansiq al-Waṭānī li-l-Difā' 'an al-Ḥurriyāt al-Asāsiya wa Huqūq al-Insān Tujaddid Da'wa li-l-I'tišām fi al-Dhikrā al-Sanawīya al-Thāniya wa al-Arba'un li-l'Īlān Ḥāla al-Ṭawārī' wa al-Dhikrā al-Ūlā li-Aḥdāth al-Qāmishli," March 7.
- 2005b. "Da'wa ilā al-Sha'b al-Sūrī li-l-I'tišām min Ajl al-Muṭālabā bi-Itlāq Sirāḥ al-Mu'taqalīn al-Siyāsīyīn," May 26.
- al-Lajna al-Waṭāniya al-Dīmuqrāṭīya fi Dayr al-Zawr 2005. "I'lān Dayr al-Zawr : Sūriyā Ḥurra Dīmuqrāṭīya wa Waṭan li-Jamī' Abnā'-hā," May 21.
- Lijān al-Difā' 'an al-Ḥurriyāt al-Dīmuqrāṭīya wa Huqūq al-Insān fi Sūriyā Majlis al-Umanā' 2005a. "Bayān Lijān al-Difā' 'an al-Ḥurriyāt al-Dīmuqrāṭīya wa Huqūq al-Insān fi Sūriyā (L.D.H.)" May 29.
- 2005b. "Taṣriḥ Ṣuḥufi Lijān al-Difā' 'an al-Ḥurriyāt al-Dīmuqrāṭīya wa Huqūq al-Insān fi Sūriyā," December 1.
- Lijān Ihyā' al-Mujtama' al-Madanī fi al-Ḥasaka wa al-Qāmishli 2005. "Bayān ilā al-Ra'y al-'Āmm," June 5.
- Markaz al-Mīmās li-l-Thaqāfa wa al-I'lām 2005. "Taḥīya min Markaz al-Mīmās li-l-Thaqāfa wa al-I'lām ilā I'lān Dimashq," October 16.
- al-Mawqif al-Dīmuqrāṭī 2005. Special Number (I'lān Dimashq li-Taghyīr al-Waṭānī al-Dīmuqrāṭī), November.
- al-Munazzama al-'Arabīya li-Huqūq al-Insān fi Sūriyā Majlis al-Idāra 2005a. "Bayān al-Munazzama al-'Arabīya li-Huqūq al-Insān fi Sūriyā bi-Sha'n I'tiqāl 'Alī al-'Abd Allāh," May 16.
- 2005b. "Bayān al-Munazzama al-'Arabīya li-Huqūq al-Insān fi Sūriyā bi-Sha'n I'tiqāl Ra'īs-hā al-Muḥāmi Muḥammad Ra'dūn," May 22.
- 2005c. "Bayān al-Munazzama al-'Arabīya li-Huqūq al-Insān fi Sūriyā," May 24.
- 2005d. "al-Munazzama al-'Arabīya li-Huqūq al-Insān Tad'ū ilā I'tišām Ihtijājān 'alā al-I'tiqālāt al-Akhīra," May 27.
- 2005e. "Bayān Ṣuḥufi min al-Munazzama al-'Arabīya li-Huqūq al-Insān fi Sūriyā ḥawla Ightiyāl Nāshit Kurdi fi Ḥalab," September 10.
- 2005f. "Bayān min al-Munazzama al-'Arabīya li-Huqūq al-Insān fi Sūriyā : Taqdim al-Muḥāmi Ḥasan 'Abd al-'Azīm li-l-Maḥkama al-'Askariya," December 8.
- Muntadā Jamāl al-Atāsi li-l-Ḥiwār al-Dīmuqrāṭī Majlis al-Idāra 2005. "Bayān min Muntadā al-Atāsi : Isrār al-Nizām 'alā al-Nahj al-Khāṭī' bi-I'tiqāl al-Ustādh 'Alī al-'Abd Allāh," May 16.
- al-Mu'tamar al-Waṭānī al-Sūrī 2005. "Bayān Ṣuḥufi : Lā Naṭlub min Aḥad an Yufakkir ka-l-Ākhar lākin Sā'adū-nā an Nanzur fi Dhāt al-Ittijāh," August 16.
- al-Mu'tamar al-Waṭānī al-Sūrī (al-Multaqā al-Waṭānī li-l-Ḥiwār al-Dīmuqrāṭī Bāris 1)2005a. "Bayān Ṣuḥufi," September 23.
- 2005b. "Muqarrarāt wa Tawṣiyāt al-Multaqā al-Waṭānī li-l-Ḥiwār al-Waṭānī al-Dīmuqrāṭī Bāris 1," September 29.
- Reuters 2004. "Large Syrian Military Convoy Pulls Out of Lebanon," September 22.
- SANA (Syrian Arab News Agency)2005a. "al-Sayyid al-Ra'īs Yulqī Kalima Shāmila amāma Majlis al-Sha'b," March 5.
- 2005b. "al-Mu'tamar al-Quṭri Yantakhib A'dā' al-Qiyāda al-Quṭriya," June 9.
- 2005c. "al-Sayyid al-Ra'īs Yuṣdir 'Afwan 'an /190/Sajīnan Siyāsīyan," November 2.
- 2005d. "al-Sayyid al-Ra'īs Bashshār al-Asad Yulqī Kalima Siyāsīya Shāmila 'alā Madraj Jāmi'a Dimashq," November 10.
- al-Taḥāluf al-Dīmuqrāṭī al-Kurdī fi Sūriyā and al-Jabha al-Dīmuqrāṭīya al-Kurdīya fi Sūriyā 2005a. "al-Taḥāluf wa al-Jabha al-Kurdīya Yuḥammilāni al-Sulṭa Mas'ūliya Ightiyāl al-Shaykh al-Khaznawī wa Yad'wāni li-Tashkīl Lajna Taḥqiq Duwaliya," June 5.
- 2005b. "Balāgh Ṣādir 'an al-Ijtimā' al-Mustarak min al-Jabha wa al-Taḥāluf," July 1.
- al-Taḥāluf al-Dīmuqrāṭī al-Kurdī fi Sūriyā, al-Jabha al-Dīmuqrāṭīya al-Kurdīya fi Sūriyā, Ḥizb al-Ittijād al-Sha'bī al-Kurdī fi Sūriyā and al-Ḥizb al-Dīmuqrāṭī al-Kurdī al-Sūrī 2005. "Bayān ilā al-Ra'y al-'Āmm," March 3.
- al-Taḥāluf al-Dīmuqrāṭī al-Sūrī 2004. "al-Bayān al-Khitāmi li-A'māl al-Mu'tamar al-Thālith li-l-Taḥāluf al-Dīmuqrāṭī al-Sūrī," July.

- al-Tajammu' min Ajl Sūriya 2005. "Bayān Şuḥufi min al-Multaqā al-Waṭanī li-l-Ḥiwār al-Dīmuqrāṭī Bāris 2," October 14.
- al-Tajammu' al-Waṭanī al-Dīmuqrāṭī fi Sūriya 2005. "Bayān ilā al-Sha'b," April 17.
- al-Tajammu' al-Waṭanī al-Dīmuqrāṭī fi Sūriya, al-Taḥāluf al-Dīmuqrāṭī al-Kurdī fi Sūriya, al-Ḥizb al-Dīmuqrāṭī al-Kurdī fi Sūriya (al-Bārti) al-Ḥizb al-Dīmuqrāṭī al-Waṭanī al-Kurdī fi Sūriyā and al-Ḥizb al-Dīmuqrāṭī al-Taqaaddumī al-Kurdī fi Sūriyā 2005. "Bayān Mushtarak," October.
- al-Tajammu' al-Waṭanī al-Dīmuqrāṭī fi Sūriya, al-Taḥāluf al-Dīmuqrāṭī al-Kurdī fi Sūriyā, al-Jabha al-Dīmuqrāṭīya al-Kurdiya fi Sūriyā, Jam'īya Ḥuqūq al-Insān fi Sūriyā, Ḥizb al-'Amal al-Shuyū'i, Lijān Ihyā' al-Mujtama' al-Madanī, Lijān al-Difā' 'an al-Ḥurriyāt al-Dīmuqrāṭīya wa Ḥuqūq al-Insān, Lajna al-Difā' 'an Ḥuqūq al-Mujarradin min al-Jinsiya, Muntadā Jamāl al-Atāsī li-l-Ḥiwār al-Dīmuqrāṭī, Nāshitū Munāhaḍa al-'Awlama fi Sūriyā and al-Munazzama al-'Arabīya li-Ḥuqūq al-Insān fi Sūriyā 2004a. "Bayān fi al-Yawm al-'Ālamī li-Ḥuqūq al-Insān," December 9.
- 2004b. "Bayān Şuḥufi : Nastankir al-Ijrā'āt al-Qam'iya ... didda Ḥaqq Ṭabī'i li-Kull Muwāṭin fi al-Ta'bīr 'an Ra'y-hi wa Ibdā' Ihtijāj-hi al-Silmī," December 9.
- Taqī al-Dīn, Randa 2004. "Lubnān : l'āda "Tamawḍu" 3 Mafāriz Amniya Sūriya wa Rāys wa Bārniyih Mutamassikān bi-Tanfīdh 1559." *al-Ḥayāt*, December 19.
- Tayyār al-Mustaqbal al-Kurdī fi Sūriya 2005a. "al-Nizām al-Dākhilī li-Tayyār al-Mustaqbal al-Kurdī fi Sūriyā (Maṭrūḥ li-l-Niqāsh)" May 11.
- 2005b. "Taşriḥ," May 20.
- 2005c. "Balāgh Khitāmī Şadir 'an al-Ijtimā' al-'Āmm al-Ta'sisi li-Tayyār al-Mustaqbal al-Kurdī fi Sūriyā," May 29.
- 2005d. "Taşriḥ : Nataḍaman ma'a al-Masīra allati Sa-Takhruj Ghadan," June 4.
- Tayyār al-Mustaqbal al-Kurdī fi Sūriyā Maktab al-'Alāqāt al-'Āmma 2005. "Bayān : Najid fi l'lān Dimashq Khaṭwa Mutaqaaddima lākinna al-Wujūd al-Qawmī al-Kurdī ghayr Qābil li-Tafāwuḍ," October 18.
- al-Tayyār al-Sūrī al-Dīmuqrāṭī 2005. "Bayān min al-Tayyār al-Sūrī al-Dīmuqrāṭī," November 9.
- al-Thawra* 2005. "Mi'āt al-Ālāf min Jamāhir Dimashq wa Ḥalab Tatazāhar Ihtijājan 'alā al-Taqrīr wa Tuḥayyī Mawāqif al-Ra'is al-Asad : Lā li-l-Ittihāmāt ... Na'am li-l-Ḥaqīqa ... Ibhathū 'an al-Qatla bayna 'Umalā' Isrā'īl wa al-Mustafīdīn min al-Jarīma," October 25.
- al-Wifāq al-Dīmuqrāṭī al-Kurdī al-Sūrī 2005a. "Bayān ḥawla Ightiyāl al-Shahīd Kamāl Shāhīn," February 18.
- 2005b. "'Amaliya Ightiyāl fi Madīna Ḥalab," August 13.
- 2005c. "Mashrū' Ḥall al-Qaḍīya al-Kurdīya fi Sūriyā," November 1.
- 2005d. "Inḍimām al-Wifāq al-Dīmuqrāṭī al-Kurdī al-Sūrī ilā l'lān Dimashq : Bayān ḥawla al-Mawqif min l'lān Dimashq," November 11.

(2006年3月脱稿)

(あおやま ひろゆき / 地域研究センター)